

2023年12月期（第124期）

# 第2四半期決算説明資料

---

2023年8月7日

 新日本電工株式会社

東証プライム市場  
証券コード5563

# INDEX

1

事業概要

2

2023年12月期 通期業績見通し

3

中長期戦略

4

APPENDIX

# 1. 4つのコア事業

祖業である合金鉄事業により安定的な収益を確保  
機能材料事業・環境事業・電力事業を通じて企業成長と社会課題の解決を推進

## 合金鉄事業

- マンガン系合金鉄の国内トップサプライヤーとして、国際的競争力に優れ、高品質の合金鉄を安定供給
- 水力発電の電力を利用したグリーン合金鉄製造（海外関連会社）

### 主な製品

高炭素フェロマンガ、SLPフェロマンガ  
シリコマンガ、フェロシリコン

### 主な用途

鉄鋼材料の強度、靱性などの特性付与のための添加剤  
製鋼時の脱硫・脱酸用



高炭素フェロマンガ

拠点：徳島工場、パータマフェロアロイズ社（海外関連会社）

## 機能材料事業

- 脱炭素化、デジタル化社会を支える数多くの先端部品向けに素材を提供
- ナンバーワン、オンリーワン商品など、特徴ある材料をラインナップ

### 主な製品

酸化ジルコニウム、酸化ほう素  
マンガ系無機化学品、フェロポロン  
水素吸蔵合金、リチウムイオン電池正極材

### 主な用途

セラミックコンデンサ、ディスプレイ用ガラス基板  
電子部品用添加剤、ネオジム磁石、HV用ニッケル水素  
電池負極材、EV用リチウムイオン電池正極材など



酸化ジルコニウム

拠点：富山工場（射水地区・高岡地区）、妙高工場、徳島工場

## 環境事業

### 環境システム事業

- 排水浄化及び純水製造の技術・サービス提供によりサーキュラーエコノミー・カーボンニュートラルの実現に貢献

### 主な製品

排水処理装置  
純水製造装置

### 主な用途

工業排水浄化  
水素ステーション用等純水製造

拠点：郡山工場

### 焼却灰溶融固化処理事業

- 焼却灰のパーフェクトリサイクルによる循環型社会への貢献

### 主な製品

エコラロック  
（焼却灰溶融固化によるスラグ）  
有価金属のリサイクル

### 主な用途

路盤材等の建設資材  
有価金属の非鉄精錬メーカーへの還元

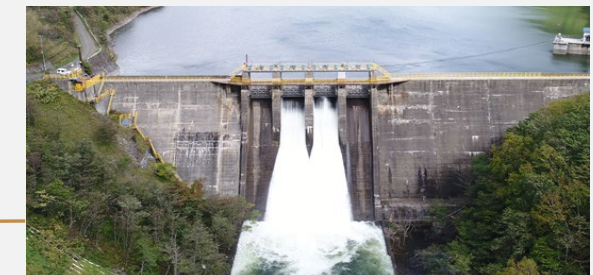
拠点：中央電気工業(株)（在鹿嶋市）

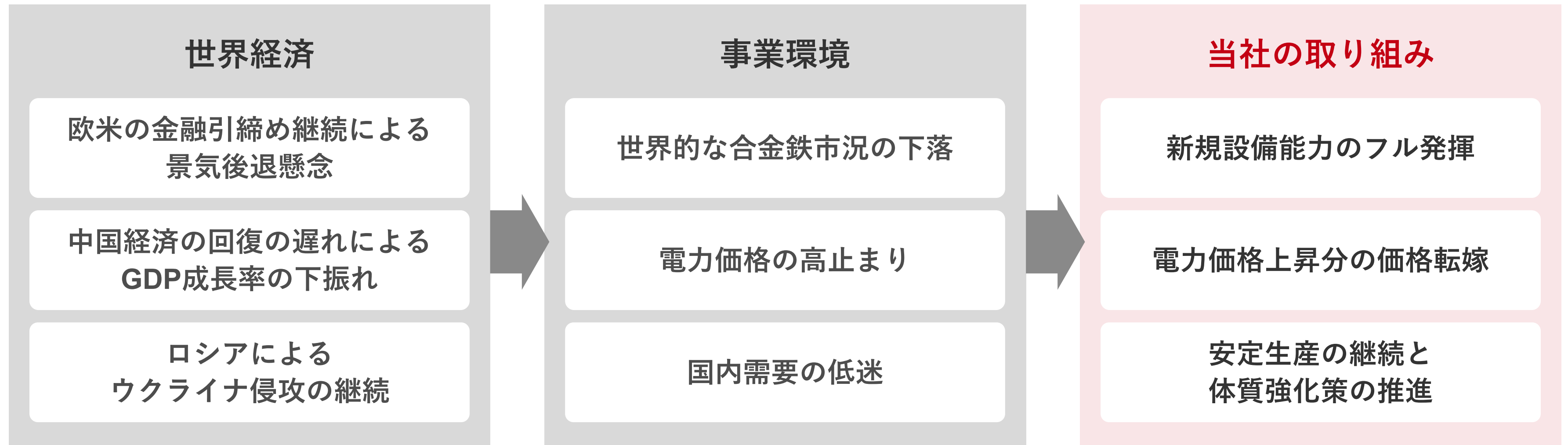
## 電力事業

- 再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）を利用した安定的な売電
- 民間最大規模のダムによるグリーン電力の安定供給
- グリーン電力の環境価値提案



拠点：日高事業所

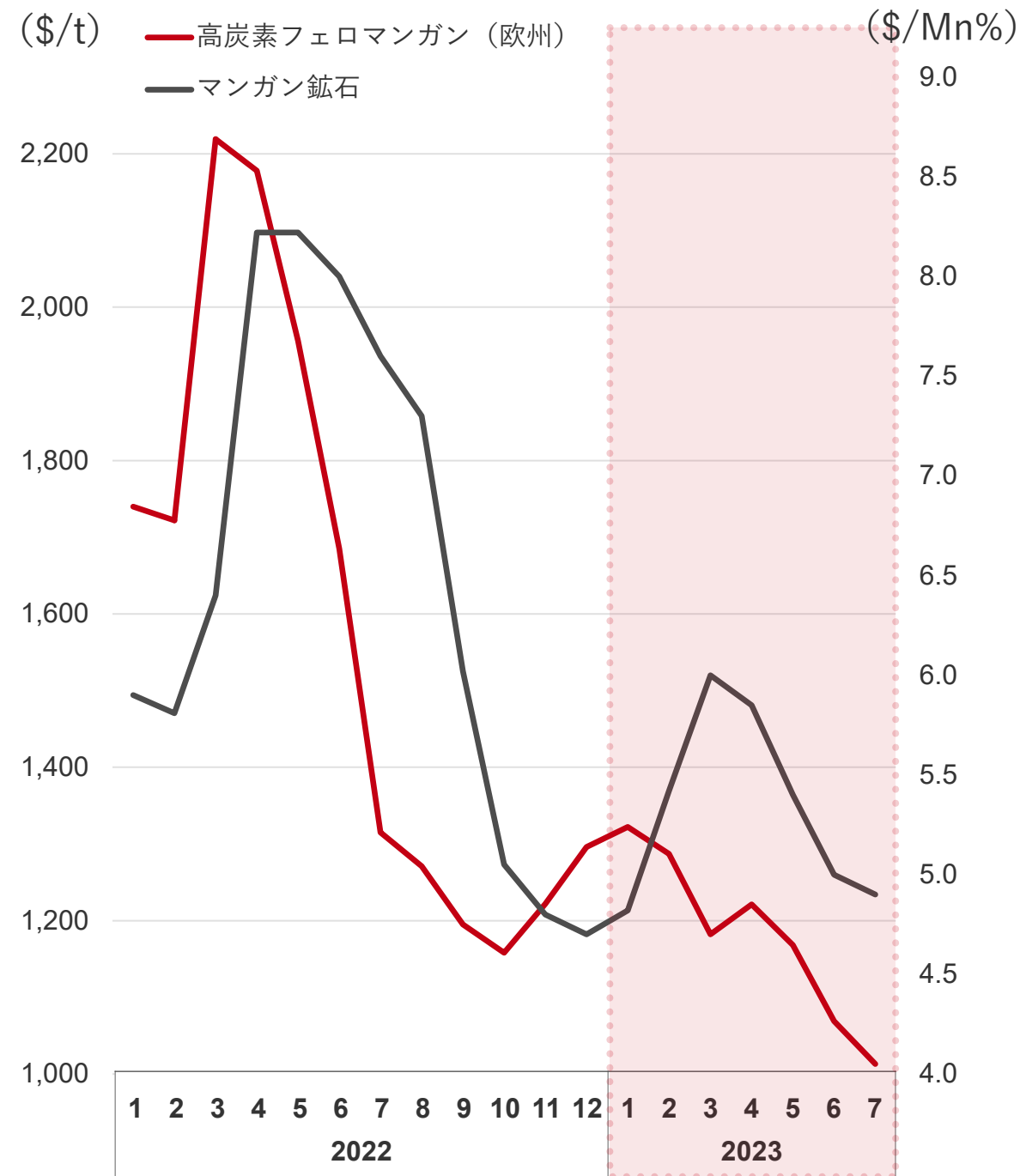




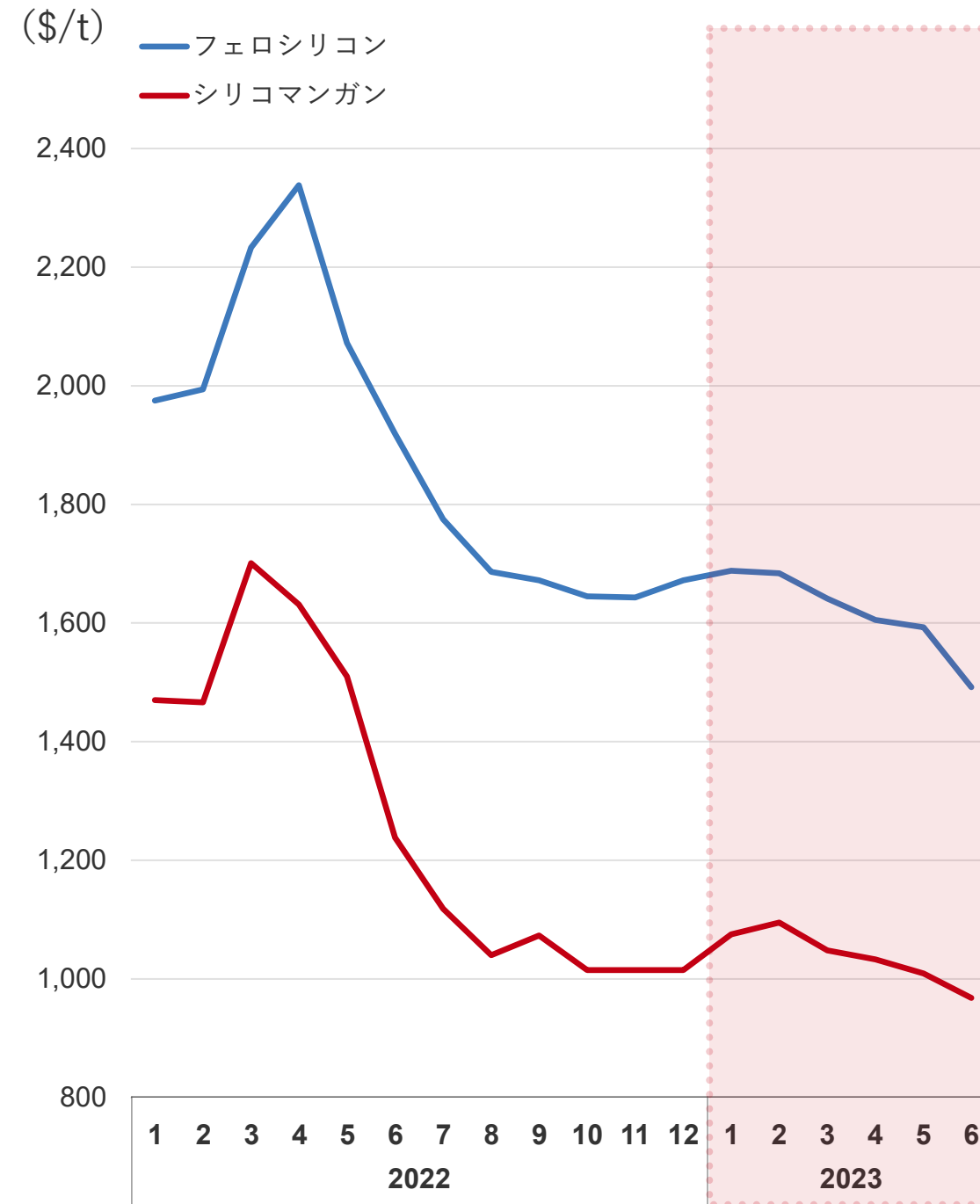
価格決定方式の効果発揮に加え収益確保のための取り組みを実施したが  
マンガン鉱石市況下落に伴う在庫影響により大幅減益となる見通し

足元ではさらに厳しい事業環境（合金鉄市況下落・電力価格高止まり）が継続

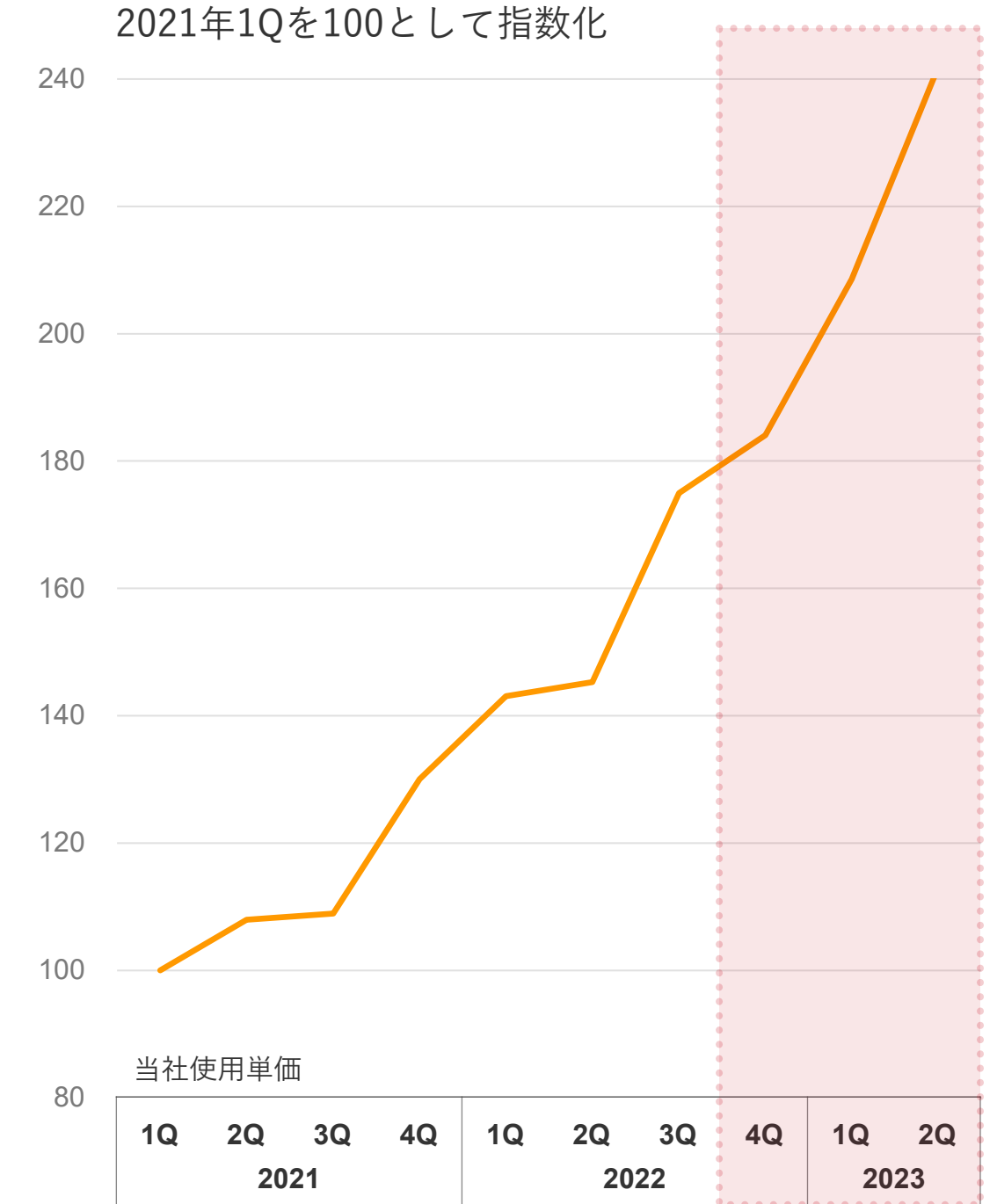
### 高炭素フェロマンガン・マンガン鉱石市況



### フェロシリコン・シリコマンガン市況



### 電力単価推移



## 2-3. 2023年12月期 通期連結業績見通し

業績見通し

- 5月の業績見通し公表時点より合金鉄市況がさらに悪化  
⇒業績見通しを下方修正（経常利益40億円⇒25億円）
- 一方で在庫影響等を除いた、実力ベースの経常利益（57億円）は前期とほぼ変わらない見通し
- 当期純利益・年間配当金の見通しを据え置き

(億円)

	2022年	2023年見通し		前期比
	実績	2023/5/11公表	2023/8/7公表	
売上高	793	780	<b>780</b>	△13
経常利益	104	40	<b>25</b>	△79
経常利益（実力ベース）	56	-	<b>57</b>	1
経常利益率（%）	13	5	<b>3</b>	△10
親会社株主に帰属する当期純利益	79	30	<b>30</b>	△49
1株あたり当期純利益（円）	54.5	21.7	<b>21.8</b>	△32.7
1株あたり年間配当金（円）	17	7	<b>7</b>	△10
ROE（%）	12	-	<b>4</b>	△8
為替（円／USドル）	130	-	<b>140</b>	-

## 2-4. 2023年12月期 通期連結業績見通し（事業別）

業績見通し

(億円)

		2022年	通期見通し (2023/8/7公表)	前期比	
合金鉄	売上高	584	<b>540</b>	△44	
	経常利益	国内	72	<b>10</b>	△62
		海外	19	△14	△33
			91	△4	△95
機能材料	売上高	113	<b>140</b>	<b>27</b>	
	経常利益	3	<b>18</b>	<b>15</b>	
環境	売上高	59	<b>70</b>	<b>11</b>	
	経常利益	3	<b>7</b>	<b>4</b>	
電力	売上高	17	<b>14</b>	△3	
	経常利益	5	<b>3</b>	△2	
その他	売上高	21	<b>16</b>	△5	
	経常利益	2	<b>1</b>	△1	
合計	売上高	793	<b>780</b>	△13	
	経常利益	104	<b>25</b>	△79	

(参考) 実力ベース損益		
2022年	通期見通し	前期比
-	-	-
25	<b>26</b>	<b>1</b>
12	△1	△13
37	<b>25</b>	△12
-	-	-
5	<b>21</b>	<b>16</b>
-	-	-
7	<b>7</b>	<b>0</b>
-	-	-
5	<b>3</b>	△2
-	-	-
2	<b>1</b>	△1
-	-	-
56	<b>57</b>	<b>1</b>

## 2-5. 2023年12月期 上期連結業績・下期見通し差異（事業別）

業績見通し

（億円）

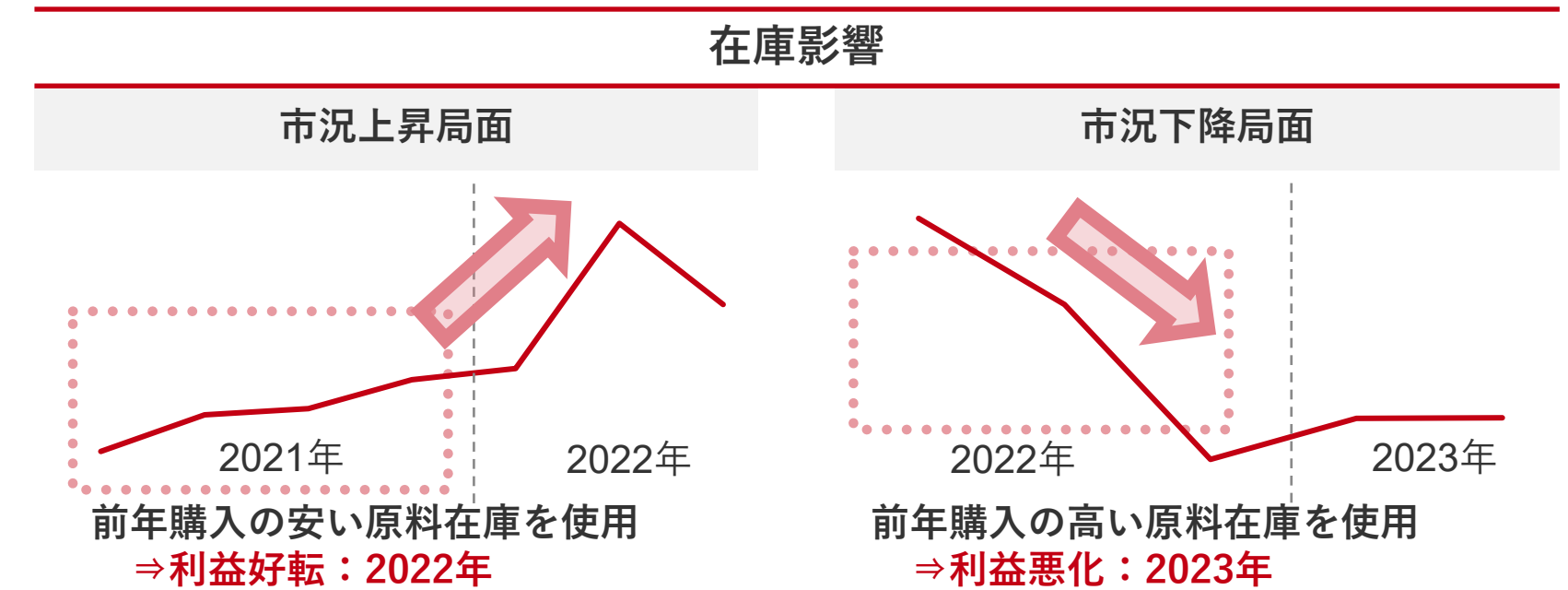
		2023年			要 因
		上期実績	下期見通し	上下差異	
合金鉄	売上高	285	255	△30	国内 計画的な炉修(耐火物更新、約90日)の実施により下期は大きく減益
	経常利益	国内	12	△2	
		海外	△9	△5	4
		3	△7	△10	
機能材料	売上高	63	77	14	能力増強効果が下期より本格的に寄与
	経常利益	5	13	8	
環境	売上高	32	38	6	価格改善の一部進展により下期収益拡大
	経常利益	2	5	3	
電力	売上高	6	8	2	
	経常利益	1	2	1	
その他	売上高	8	8	0	
	経常利益	0	1	1	
合計	売上高	394	386	△8	
	経常利益	11	14	3	



## 2-6. 事業別概況（国内合金鉄事業）①

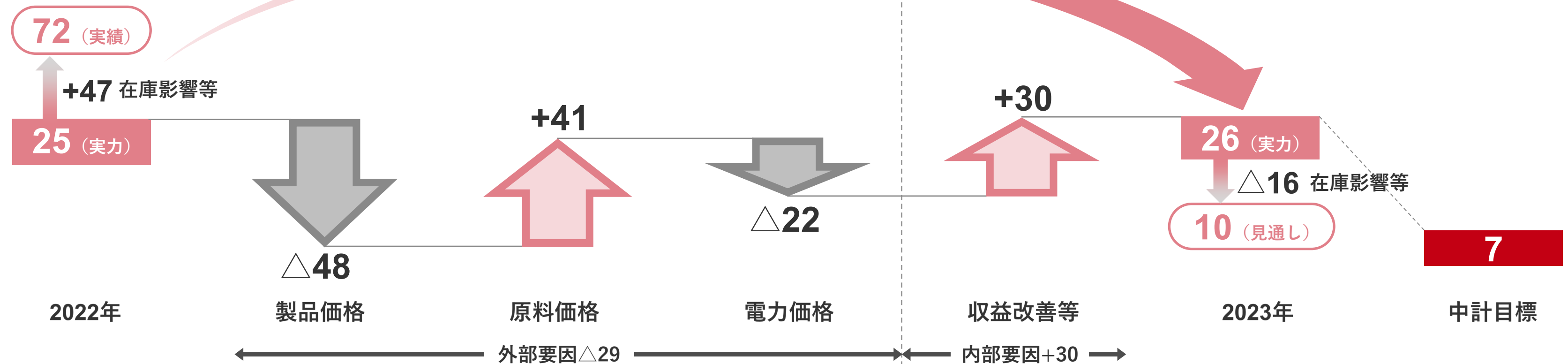
業績見通し

- 高炭素フェロマンガ入市況及びマンガン鉱石市況は大幅下落
- 在庫影響は昨年度のプラスから一転マイナスへ
- 在庫影響等を除いた実力損益は、電力価格の上昇等のマイナスを上回る収益改善（価格決定方式変更等）により、ほぼ前年並みの水準を維持
- 実力ベースの経常利益は、中計目標を上回る見通し



### 経常利益増減分析

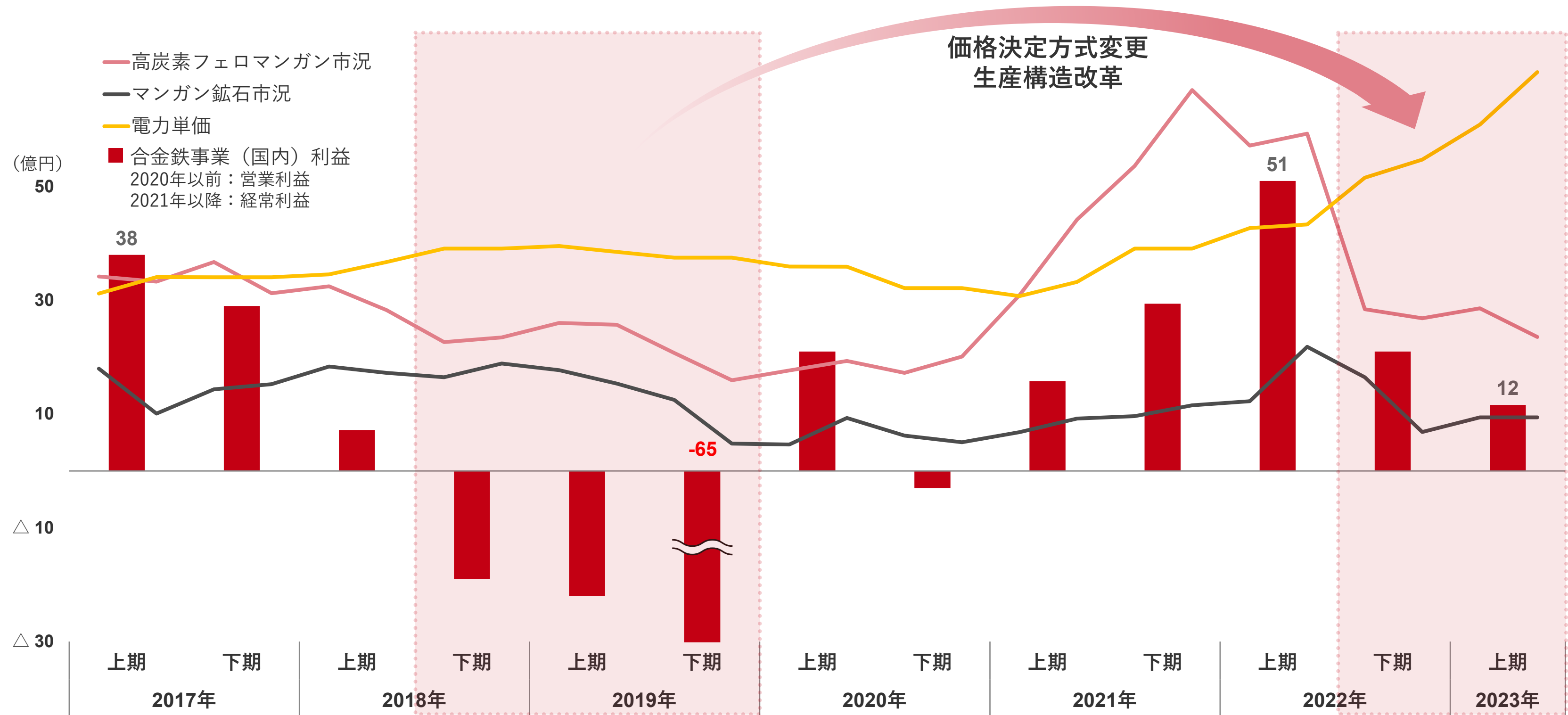
(億円)



## 2-7. 事業別概況（国内合金鉄事業）②

業績見通し

- 大手需要家との価格決定方式の変更、及び生産構造改革により電力コスト変動や市況下降局面においても安定した収益を確保し、下振れリスクを回避できる体制を構築

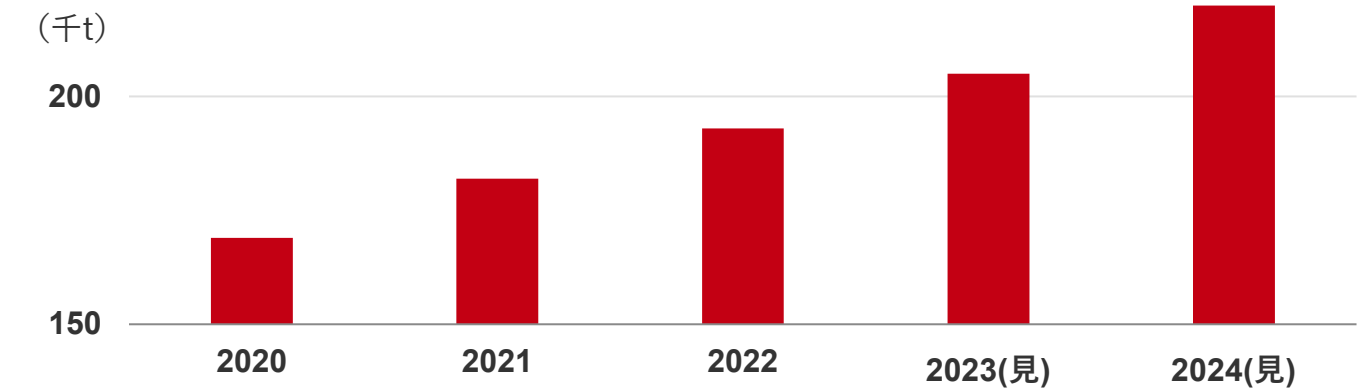


## 2-8. 事業別概況（合金鉄事業：海外関連会社 （パータマフェロアロイズ社：当社25%出資 KIH社：当社25%出資））

業績見通し

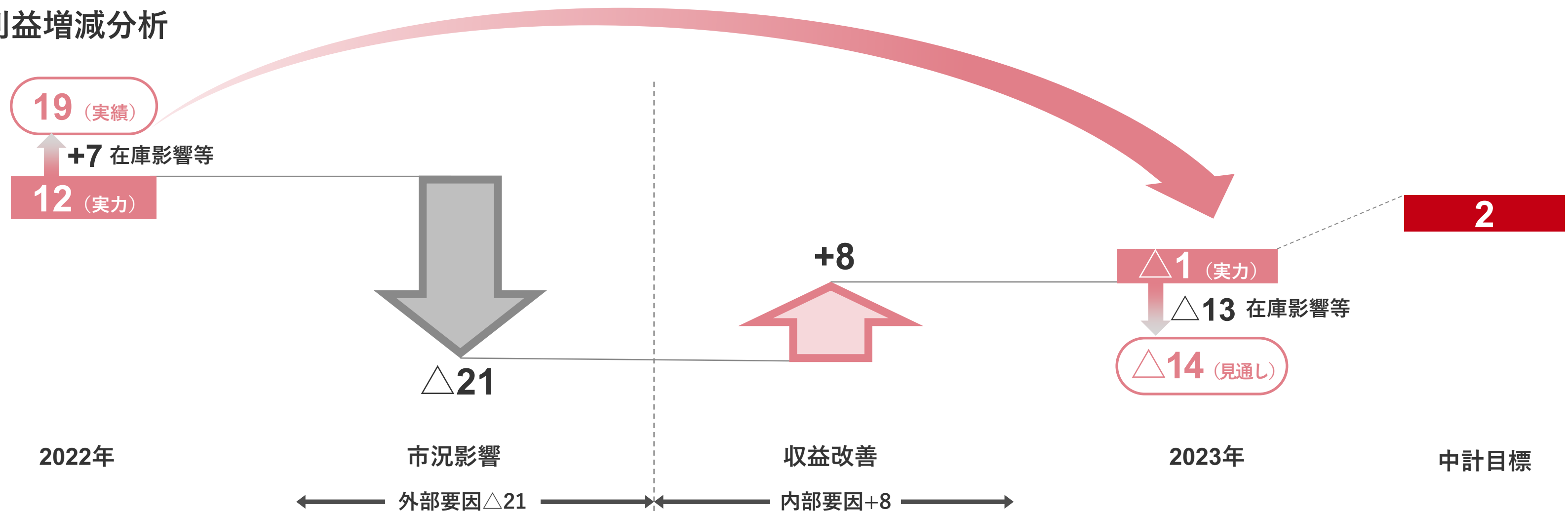
- シリコマンガン及びフェロシリコン市況の下落及び在庫影響等により対前年大幅マイナス
- パータマフェロアロイズ社の安定生産の実現により着実に製造実力は向上
- 2024年の生産体制確立により、実力損益の黒字化を目指す

パータマフェロアロイズ社  
生産量（シリコマンガン・フェロシリコン）



### 経常利益増減分析

(億円)



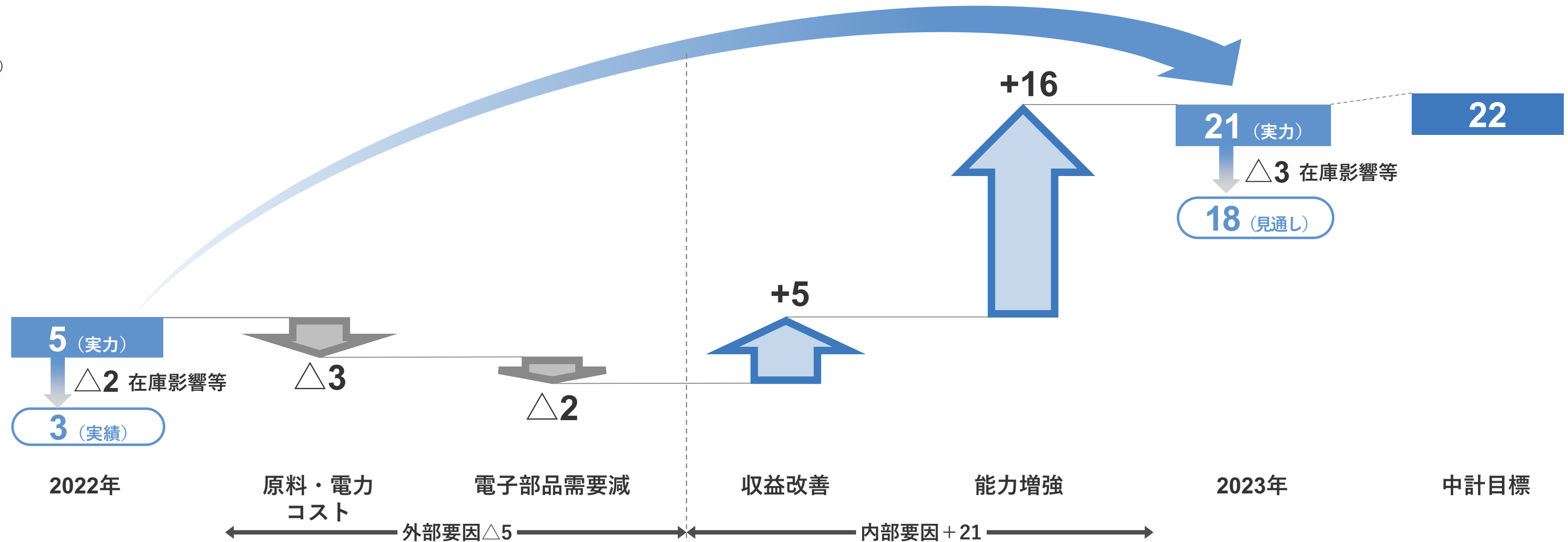
## 2-9. 事業別概況（機能材料事業）

業績見通し

- フェロボロン再稼働、リチウムイオン電池正極材の生産能力増強により対前年で経常利益は大きく増加
- 電力コストの上昇に対し、販売価格への転嫁推進
- 酸化ジルコニウムは車載用電子部品の需要回復の遅れにより販売減。2024年以降の販売数量回復を見込む
- 実力ベースの経常利益は前期より大幅に増加し、ほぼ中計並みとなる見通し

### 経常利益増減分析

(億円)



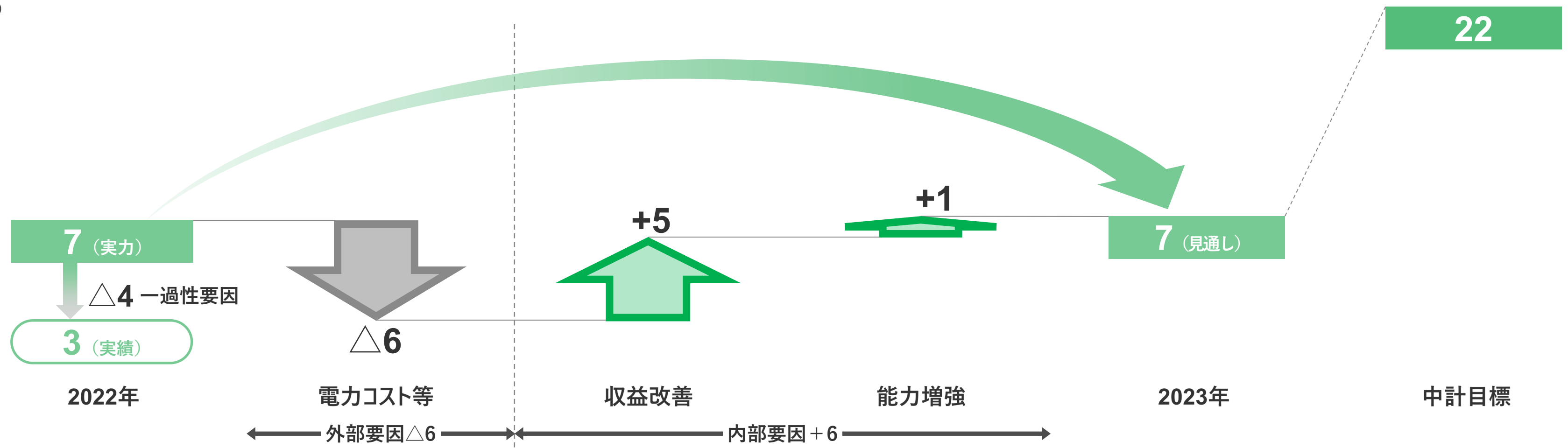
## 2-10. 事業別概況（環境事業）

業績見通し

- 環境システム事業
  - ・ 電力及び原材料コスト上昇を販売価格に転嫁
- 焼却灰溶融固化処理事業
  - ・ 電力コスト上昇分の処理価格への転嫁は一部にとどまる
- 前年並みの実力損益を確保したものの、コロナ影響による自治体の財政難を起因とした焼却灰収集の遅れや電力コスト上昇分の価格転嫁が道半ばであるため、中計目標には大きく未達

### 経常利益増減分析

(億円)



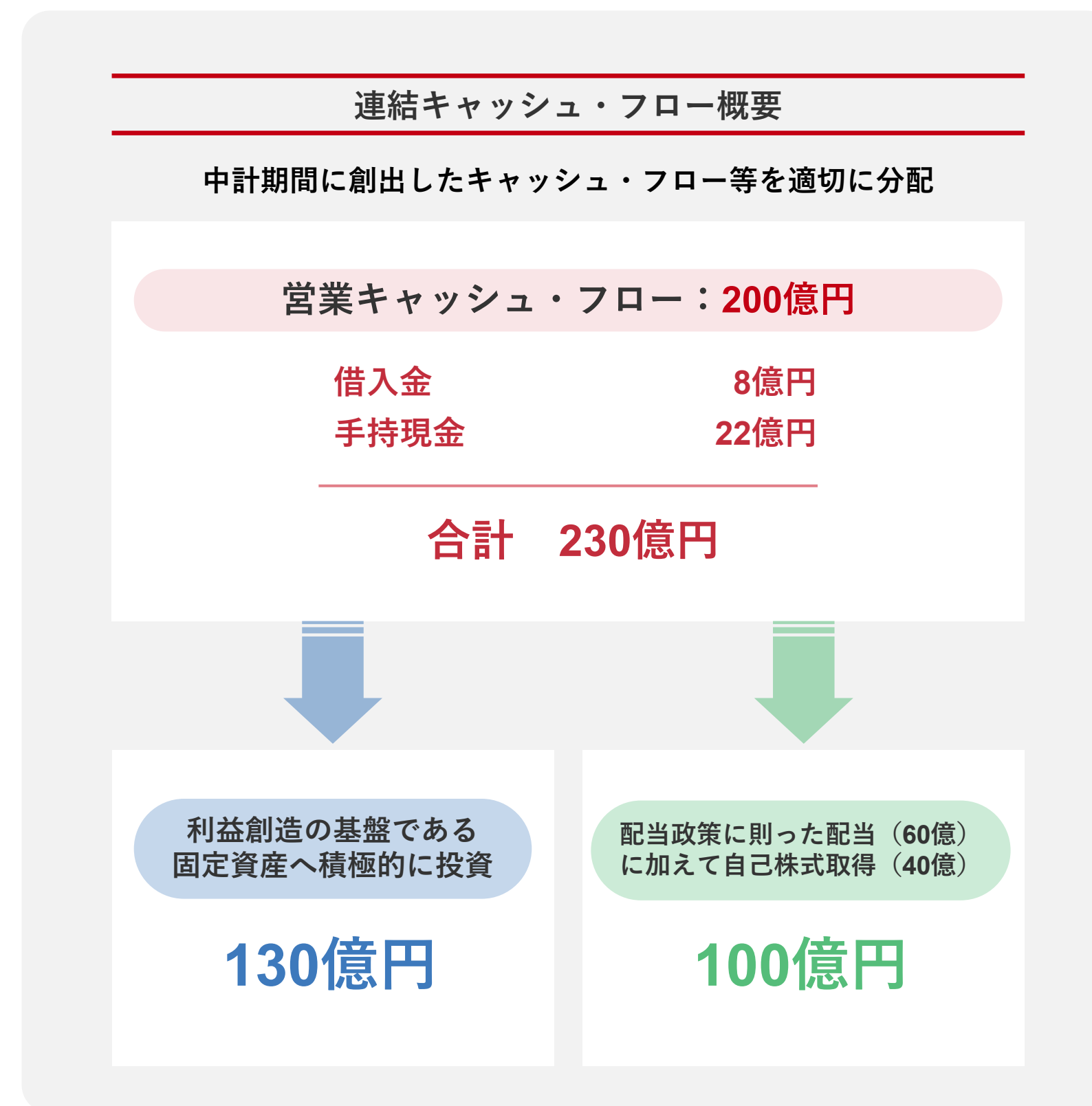
## 2-11. 連結キャッシュ・フロー

業績見通し

### 連結キャッシュ・フロー

(億円)

	2023年見通し	2021年～2023年
税金等調整前当期純利益+減価償却費	64	280
持分法投資損益（非資金損益項目）	14	△3
その他（運転資本の増減等）	7	△77
営業キャッシュ・フロー	85	200
投資キャッシュ・フロー	△62	△130
フリーキャッシュ・フロー	23	70
借入金等の増減額	△11	8
配当金	△17	△60
自己株式取得	△10	△40
財務キャッシュ・フロー	△38	△92
現金及び現金同等物期首残高	89	96
現金及び現金同等物期末残高	74	74
現金及び現金同等物増減額	△15	△22

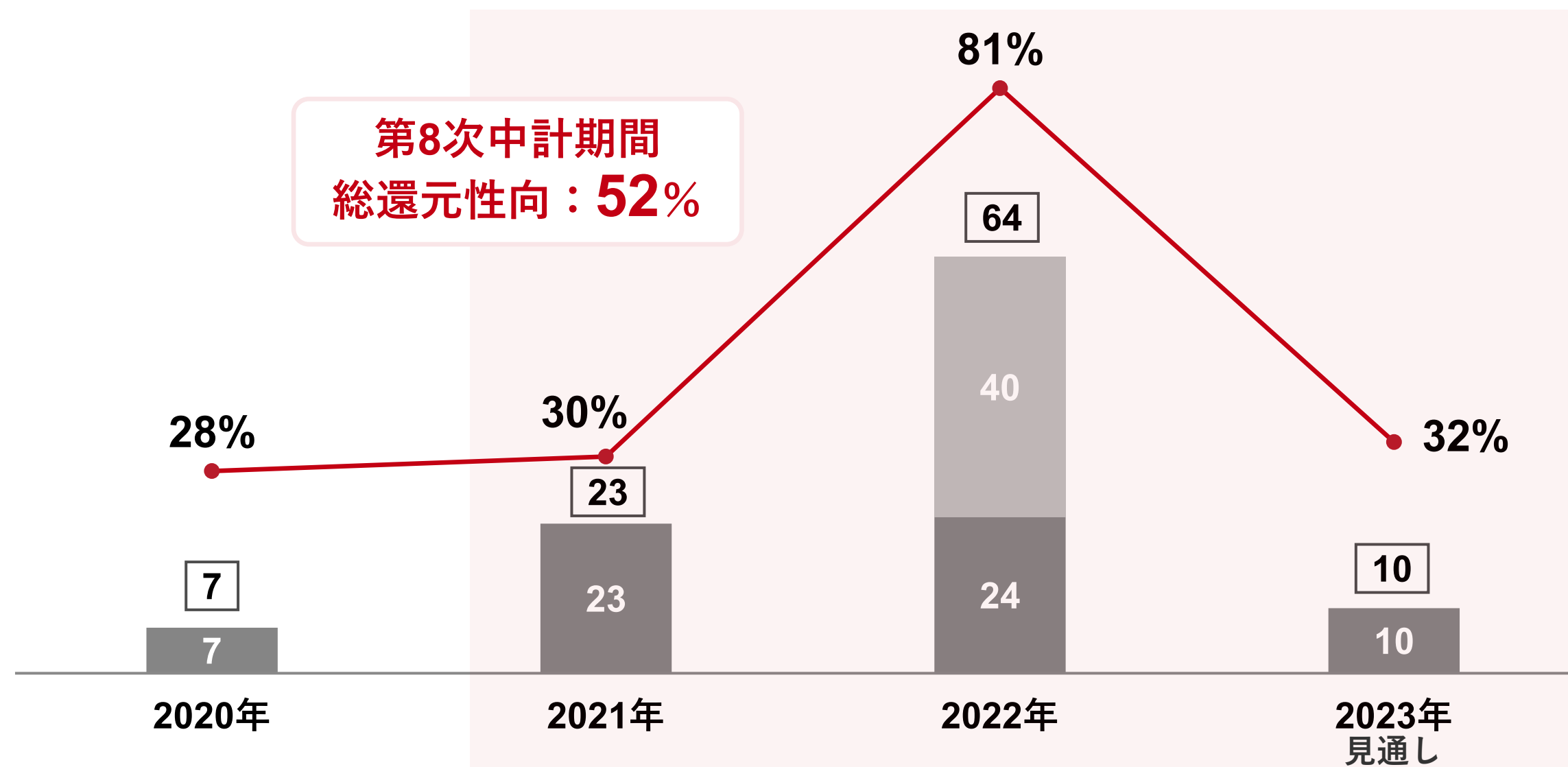


## 2-12. 株主還元

業績見通し

- 2023年12月期配当：配当政策に則り実施予定（中間3円、期末4円）5月想定値据え置き
- 中計期間における総還元性向：52%

□ 総還元額    ■ 自己株式取得    ■ 現金配当    ● 総還元性向    (億円)



売上高	540	660	793	780
親会社株主帰属 当期純利益	26	78*	79	30

\* 繰延税金資産の計上による+24億円を含む

### 配当政策

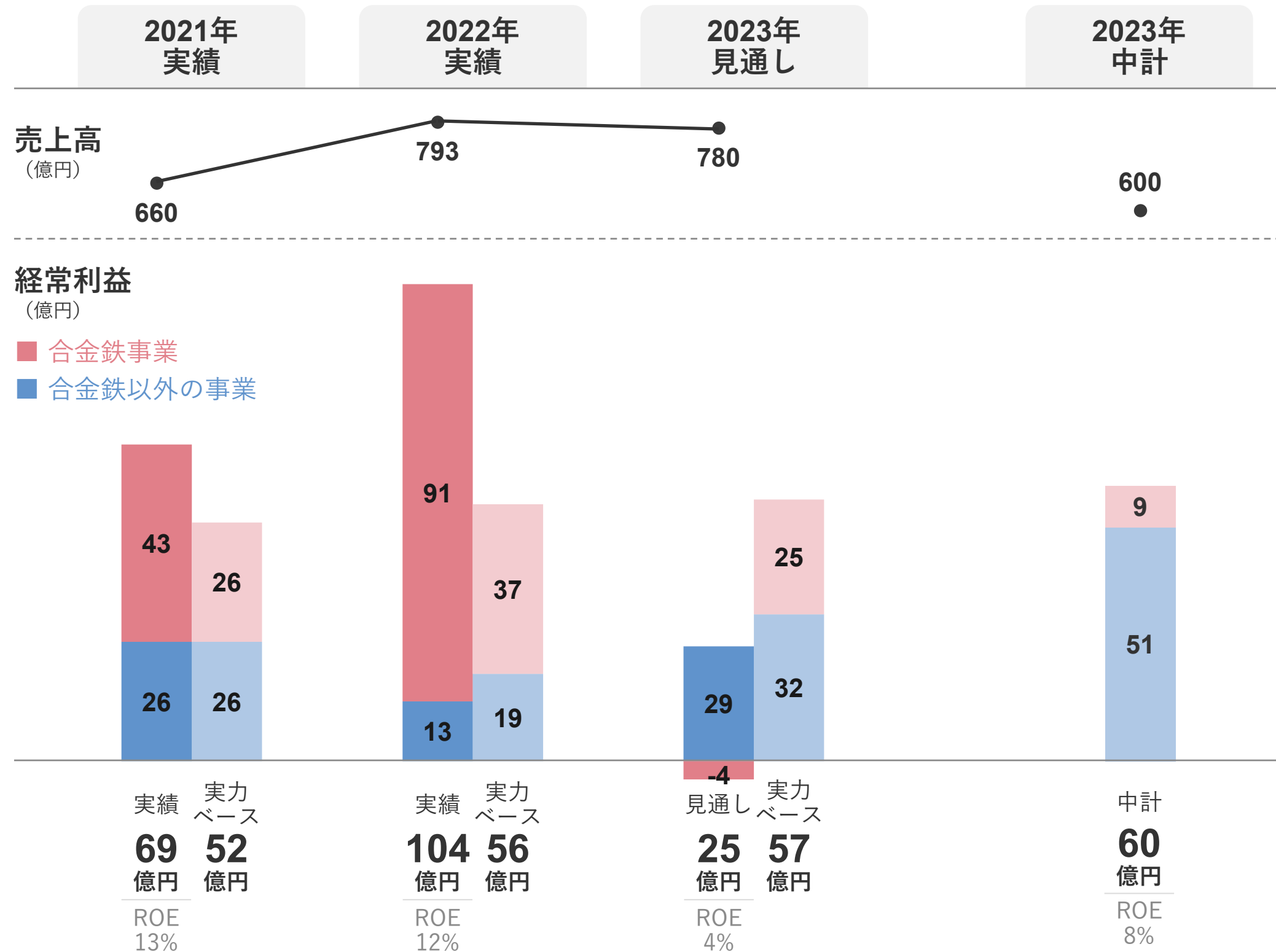
連結配当性向  
年間**30%**程度を目安

### 自己株式取得の方針

- 今後の事業展開
  - 投資計画
  - 内部留保の水準
  - 業績動向等
- 総合的に考慮し検討

# 3-1. 第8次中期経営計画の進捗①

## 経常利益（推移）



(実力ベース：在庫影響等を除いた利益)

## 総評

- 中計の諸施策及び原材料価格・電力価格の上昇によるコスト増分の価格転嫁を着実に実行
- しかしながら、“新型コロナウイルス”、“ロシアのウクライナ侵攻”、“欧米の金融引き締め継続”等の影響を受け電動車の減産による電子・電池材料の販売減、自治体の財政悪化による焼却灰収集量減、合金鉄市況の大幅下落による在庫影響等、本中計期間は厳しいビジネス環境となった
- 経常利益において、在庫影響等を除いた実力ベースでは2023年中計の目標水準をほぼ達成

## 進捗状況

- 合金鉄事業
  - ・ 国内については生産集約、価格フォーミュラ改定の2つの施策を通じ、収益の安定化を実現
  - ・ 海外については市況の影響を大きく受けたものの生産能力の向上により生産・販売量を着実に増加
- 合金鉄以外の事業（機能材料・環境）
  - ・ 2023年においては厳しいビジネス環境が残るものの、設備能力の増強（酸化ジルコニウム・酸化ほう素、焼却灰4号溶融炉の新設、フェロボロン再稼働）、及び電力料金上昇分の価格転嫁により収益増に向け取り進めている

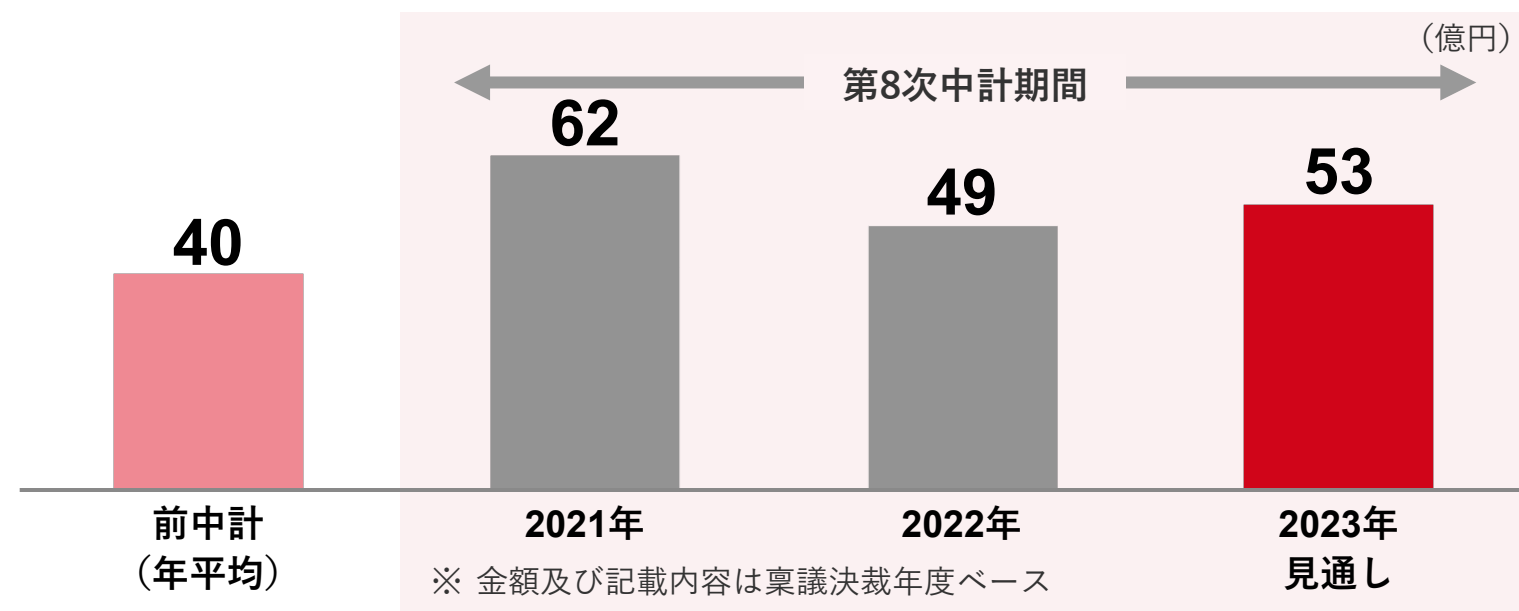


# 3-2. 第8次中期経営計画の進捗②

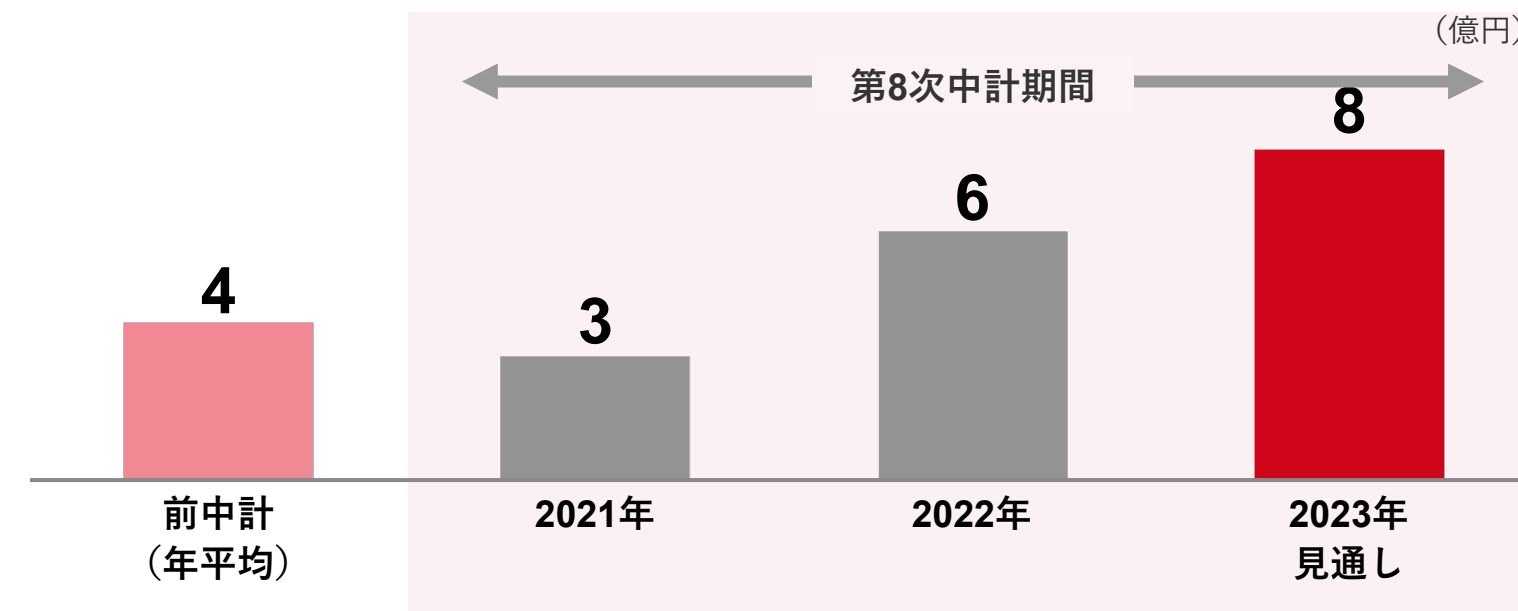
## ■ これまでの成果と今後の施策

		2021年	2022年	2023年上期 (1-6月)	2023年下期以降 (7月～)
既存 ビジネス の強化	合金鉄	<b>合金鉄事業の収益安定化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高炭素フェロマンガンを炉操業停止 生産を徳島へ集約 (鹿島・21年12月)</li> <li>■ 新たな価格決定方式の導入 (21年7月)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電力料金上昇分を販売価格に反映 (23年4月)</li> <li>■ 電池材料 (リチウムイオン電池正極材) 受託生産の拡充 (23年5月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パータマフェロアロイズ社の水力発電を利用したグリーン合金鉄製造・販売を拡大</li> <li>■ 新たに戦力となった生産能力を活かし新規顧客開拓による販売増</li> <li>■ 焼却灰の新規収集量の拡大によるEM4のフル稼働</li> </ul>
	機能材料	<b>機能材料・環境事業を拡大</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 酸化ジルコニウム 生産能力増強 (徳島・21年9月)</li> <li>■ 酸化ほう素 生産能力増強 (徳島・21年9月)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 酸化ほう素増設 (富山・22年2月)</li> <li>■ フェロボロン生産再開 (富山・22年11月)</li> </ul> </li> <li>■ 焼却灰4号溶融炉 (EM4) の新設 (CDK・22年10月)</li> </ul>			
	環 境				
新規 ビジネス への挑戦	研究開発	<b>研究開発のさらなる充実・強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 研究開発体制の強化 (21年1月)</li> <li>■ 大学や研究機関、先進企業との共同研究開始 (21年～)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 信州大学との共同研究による新イオン交換無機結晶を開発 (23年3月)</li> <li>■ ベンチャーキャピタルファンドへの出資 (23年4月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新イオン交換無機結晶を活用した水処理循環装置の開発・実用化</li> <li>■ ファンド出資先と当社とのシナジー創出機会の探索</li> </ul>
	シナジー 創出機会の探索	<b>新分野・新市場の開拓を精力的に推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 環境システム事業開発センター設置 (21年7月)</li> </ul>			
事業環境 変化に 適応する 強い 企業体質 の構築	2050年当社カーボン ニュートラルへの挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 太陽光発電設備の設置 (郡山・22年2月)</li> <li>■ GXリーグへの賛同 (22年3月)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 生産活動での省エネを強力推進</li> <li>■ GXリーグへの参画 (23年5月)</li> <li>■ 脱炭素社会への貢献：リチウムイオン電池正極材受託生産の拡充 (妙高・23年5月)</li> <li>■ フェロボロンの安定生産による国内サプライチェーンへの寄与</li> <li>■ 統合報告書 発行 (23年3月)</li> <li>■ 分析データ管理システム導入 (23年2月)</li> <li>■ 購買管理システム導入 (CDK・郡山23年6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ カーボンフリー合金鉄製造プロセスの推進 (フェロマンガンを製造におけるカーボンニュートラル型省エネ技術の調査)</li> <li>■ ジュニアボードの創設 (中堅・若手社員による疑似役員会)</li> <li>■ 人権デューデリジェンスの実施</li> <li>■ 基幹システムの導入 (24年1月～段階的開始)</li> <li>■ 購買管理システム導入 (富山・妙高・日高)</li> </ul>
	持続可能な社会に 貢献する製品・技術・ サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車の電動化・自動化への貢献：酸化ジルコニウム増強工事 (徳島・21年9月)</li> <li>■ 通信インフラ高度化への貢献：酸化ほう素増強工事 (徳島・21年9月)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 酸化ほう素設備増設 (2拠点体制) (富山・22年2月)</li> </ul> </li> <li>■ 循環型社会への貢献：焼却灰4号溶融炉 (EM4) 新設 (CDK・22年10月)</li> <li>■ 国内サプライチェーン強化へ寄与：フェロボロン再稼働 (富山・22年11月)</li> </ul>			
	D&I・人的資本を 重視した経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ くるみん (☆2つめ) 認定 (21年4月)</li> <li>■ 65歳定年延長 制度導入 (22年3月)</li> </ul> 			
	人権、環境も勘案した 公平且つ公正な購買	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人権基本方針策定 (22年10月)</li> <li>■ サステナブル調達方針策定 (22年10月)</li> </ul>			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホームページ刷新 (22年11月)</li> </ul>			
	D X の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 設備管理システム導入 (22年7月)</li> <li>■ DXビジョン・ロードマップ策定 (22年10月)</li> </ul>			

## 設備投資額の推移



## 研究開発費の推移



- 昨年までの生産能力拡大・省エネ投資設備は順調に稼働し事業に貢献
  - ① 焼却灰4号溶融炉新設 (中央電気工業)
  - ② フェロボロン生産再開 (富山工場射水地区)
  - ③ 酸化ほう素の生産2拠点化 (富山工場射水地区)
  - ④ LIB正極材料生産能力増強 (妙高工場)
  - ⑤ 自家消費型太陽光発電 (郡山工場)
- カーボンニュートラルに向けた省エネ・脱炭素へのさらなる積極投資
  - ① 省エネ法の事業者クラス分け評価制度Sクラスの継続認定
    - ・大型集塵機のインバーター化、変圧器の高効率化、他
  - ② 化石エネルギーの非化石エネルギー・電気への転換推進
    - ・機能材料の焙焼炉における電化を検討中

- 新製品・新技術開発の加速
  - ・ 大学や優れた技術を持つ研究機関との共同・委託研究を推進
  - ・ 開発した製品・技術の特許化：出願済み2件、出願準備中7件

### 【外部機関との連携状況 (2023年6月末現在)】

分野	件数
高機能材料関連	7
カーボンニュートラル関連	9

- カーボンニュートラルへの省エネ・脱炭素への取り組み
  - ・ 2023年度NEDO公募事業のFS調査フェーズに採択
  - 「**フェロマンガン製造におけるカーボンニュートラル型省エネ技術の調査**」

# 3-4. PBR1倍超に向けての長期事業戦略骨子

〔 詳細は次期中期計画（2024年～）  
と併せて年内公表予定 〕

中長期戦略

経営理念：特徴ある製品・技術・サービスを開発・提供し、持続的な成長を通して豊かな未来の創造に貢献する

基本方針：「事業活動を通じた社会課題の解決への貢献」と「持続的な成長を通じた企業価値向上」の両立

⇒多様なステークホルダーに価値を提供することにより、信頼及び評価向上を目指す

## PBR 1.0 倍超実現のために4つの柱を推進

### ① 成長戦略

持続可能な社会に貢献する成長分野への積極的な新規投資による事業拡大

- 合金鉄：パータマ社増強（グリーン合金鉄＋グローバルサプライ拠点）
- 機能材：自動車電動化等に対応した増強投資、新製品開発及び事業化
- 環境システム：水素関連向けの純水製造装置拡販、排水処理の事業領域拡大
- 焼却灰溶融固化処理：事業規模の大幅拡大（パーフェクトリサイクルの社会インフラ化）

成長分野への積極投資による事業ポートフォリオの再構築

### ② 収益性の向上と安定化

安定かつ高収益体制の確立

### ③ 財務戦略

長期戦略の実現と収益性の向上に資する財務体質への変革

- 利益の源泉となる固定資産の増強
- 適切な範囲での財務レバレッジ拡大
- 積極的な株主利益還元の実行

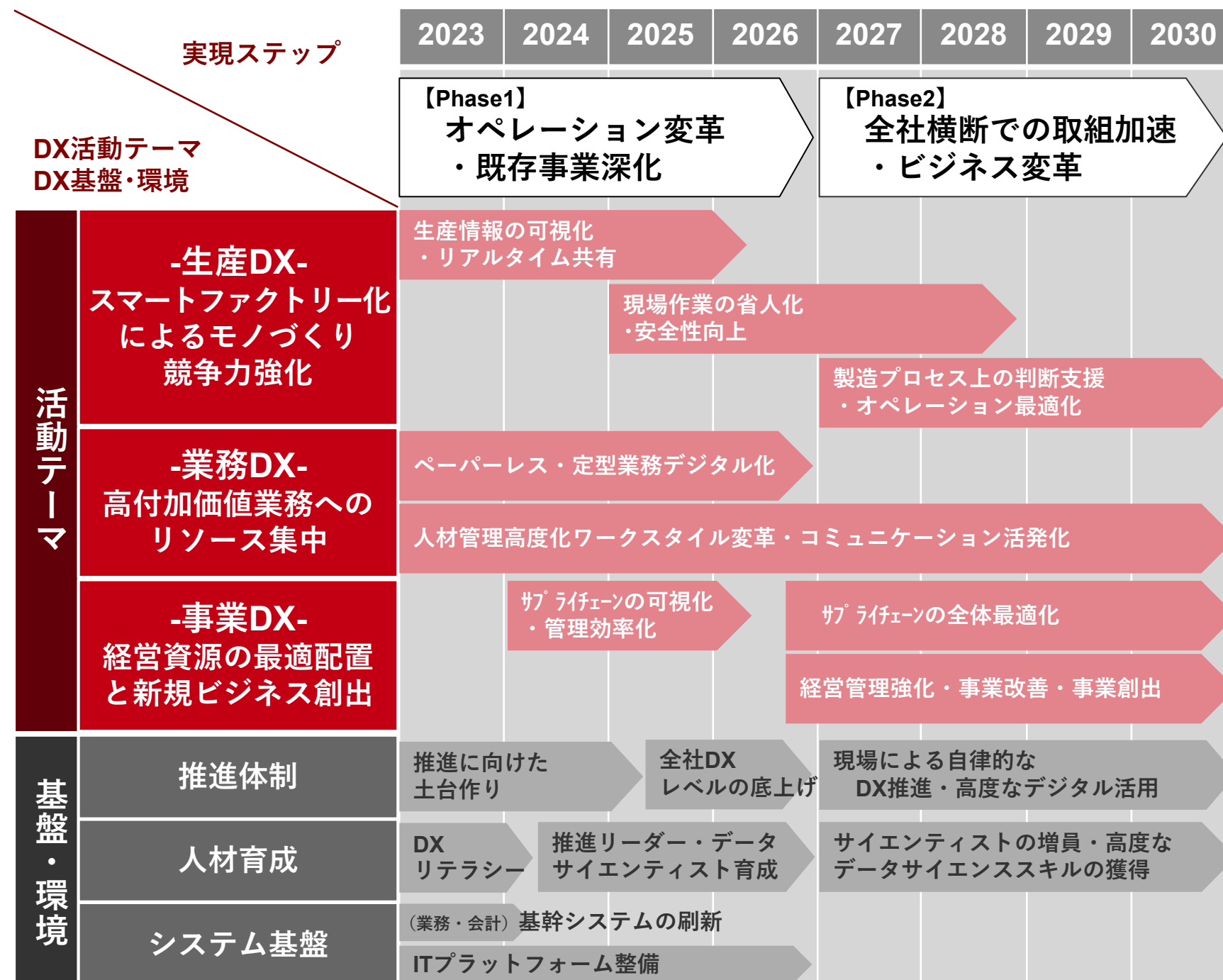
### ④ サステナビリティ関連施策

長期事業戦略と連動したサステナビリティ関連施策の推進

- 人的資本経営：人的資本への投資、人材確保、DE&Iの実現、エンゲージメント向上
- GX：木質コークス、化石燃料から電気への転換、再エネ発電の導入等
- DX：スマートファクトリー化等による製造・業務体制の革新、DX人材育成
- サステナビリティ調達：グリーン調達、人権DD、地政学リスク回避、サプライヤー選定
- 情報開示：人的資本・環境関連等の積極開示、株主との対話強化

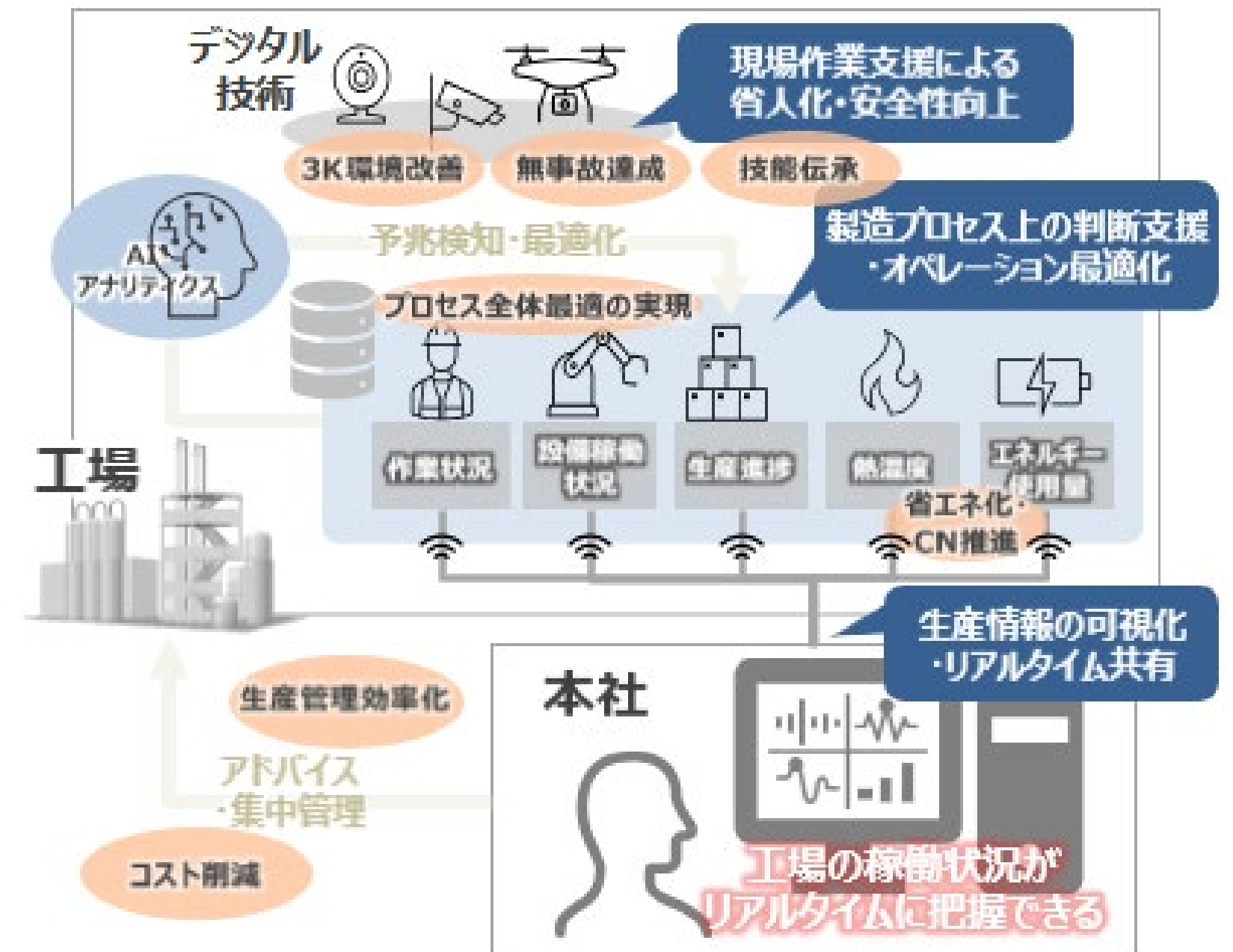
## DXロードマップ（2023年～2030年）

- 2030年に向けてのDXビジョンに沿って、製造現場のデジタル化を支援するIoT基盤及びソフトウェアの導入を全社的に推進



## スマートファクトリー化例（徳島工場機能材料）

- 現場データを見える化し、一元的に共有し活用できる仕組み構築
- デジタルの活用により自らが変革することで最適なモノづくりと新たな価値創出の実現を目指す

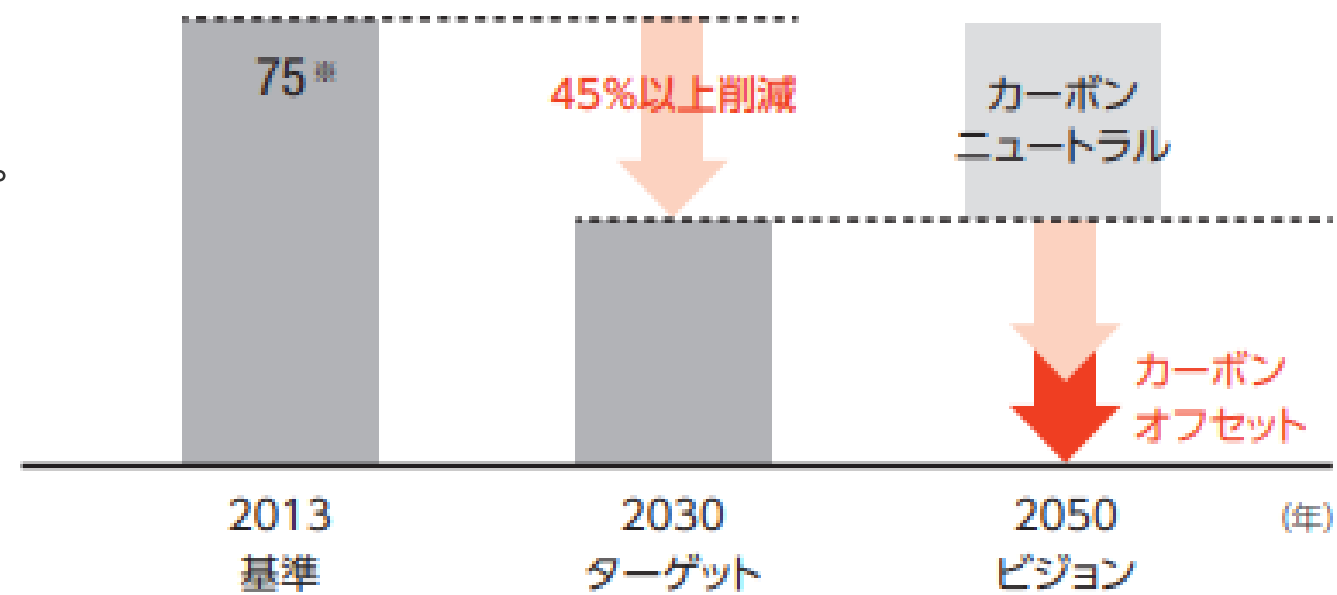


# 3-6. カーボンニュートラル ①

## カーボンニュートラルに向けた省エネ・脱炭素への取り組み

### CO<sub>2</sub>排出量削減シナリオ

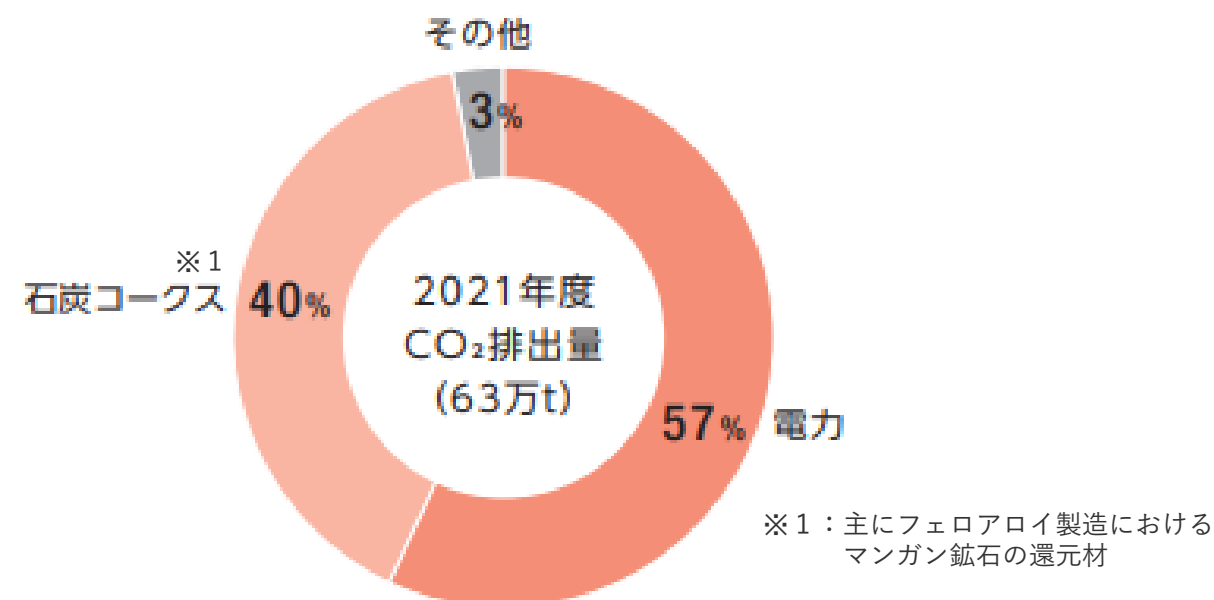
1) 当社グループ  
CO<sub>2</sub>排出量  
(万t/年)



シナリオ範囲 Scope1,2

※一般電気事業者のCO<sub>2</sub>排出係数の適用年度を変更(2022年3月29日公表資料より)

2) 当社グループ  
エネルギー起源別  
CO<sub>2</sub>排出量比率



### 省エネルギーの取り組み

エネルギー消費原単位の低減への取り組み及びその実績より、資源エネルギー庁が実施している省エネ法に基づいた事業者クラス分け評価制度において、**3年連続のSクラス優良事業者**として認定を取得

### 2023年度NEDO公募事業のFS調査フェーズに採択

テーマ：フェロマンガン製造における  
カーボンニュートラル型省エネ技術の調査

石炭コークスの代替となる新還元技術を広く探索し、脱炭素が可能で大きな省エネ効果も見込めるプロセスを調査する

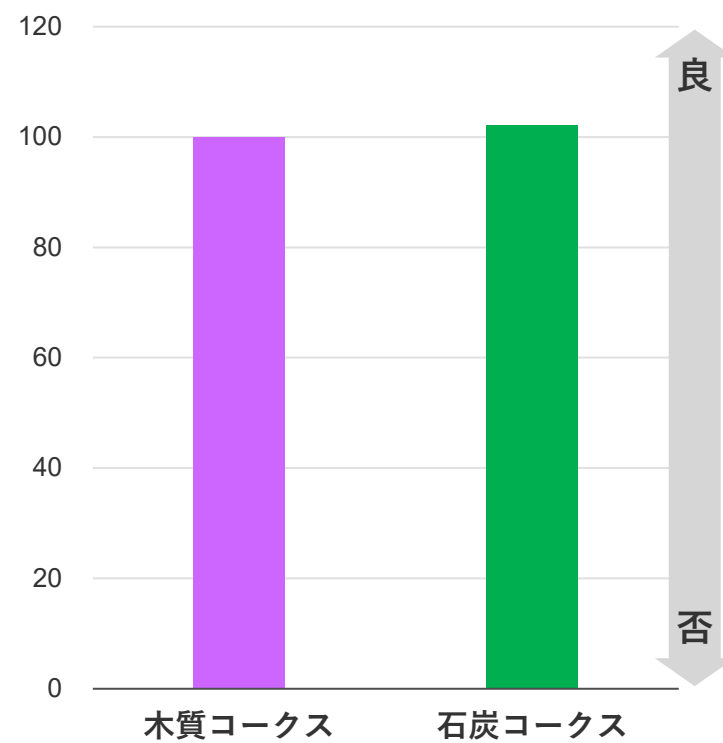
#### 【マンガン鉱石の新還元技術の候補】

- ① 持続可能な木質コークス還元
- ② 水素還元 (水素プラズマ還元含む)
- ③ グリーンメタン還元
- ④ グリーン合成炭素還元
- ⑤ 熔融酸化物電解還元 (電気還元)

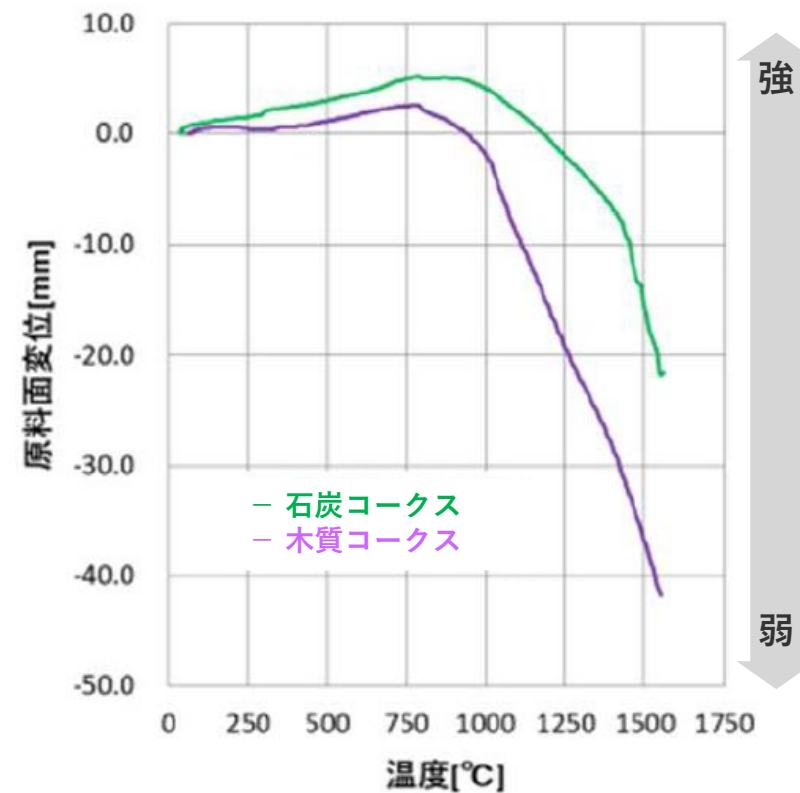
## 木質コークス還元の研究開発

### 木質コークスの性能評価状況

【還元性試験（収率評価）】



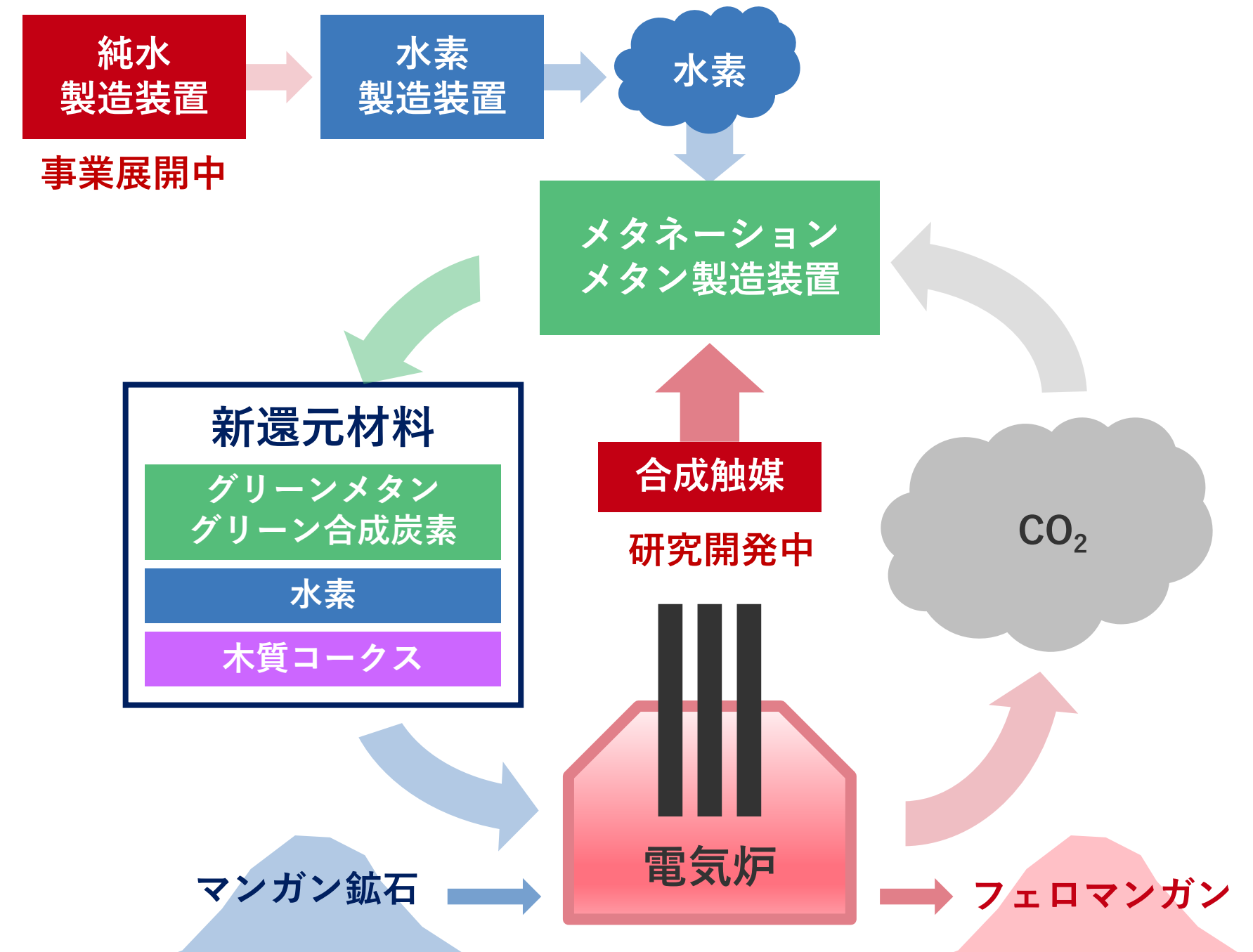
【高温強度試験（粉化評価）】



- マンガン鉱石の還元性試験では、木質コークスと石炭コークスに大差なく木質コークスへの代替の可能性大
- 木質コークスは高温強度が低いため、実炉における操業対応が大きな課題
- 木質コークスの改良と実炉操業面での技術改善両面からアプローチ

## フェロマンガンの製造のCO<sub>2</sub>ゼロエミッションイメージ

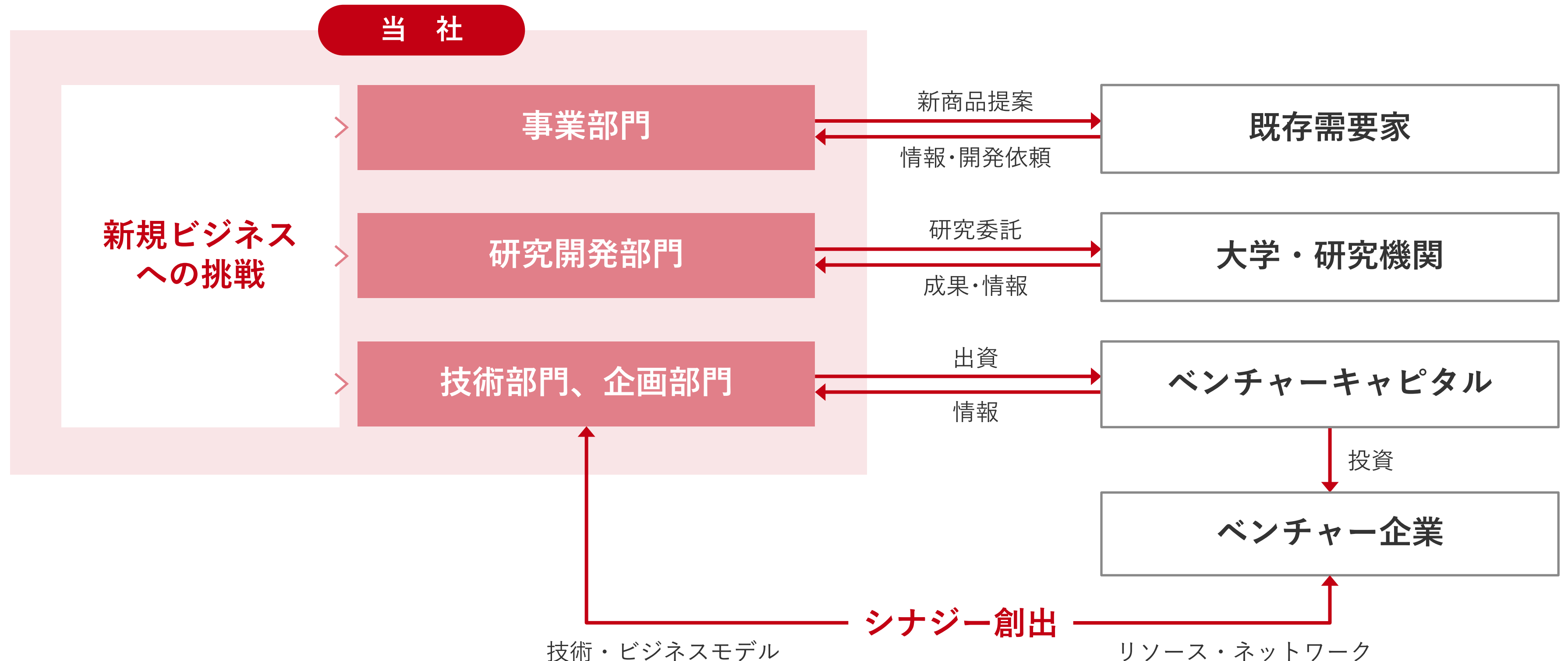
マンガン鉱石の新還元技術の調査・開発と並行し、当社製品・技術を利用した持続可能なサイクルの構築を目指す



### 3-8. 新規ビジネスへの挑戦 ①

#### ■ 当社の事業拡大・事業シナジー創出に向けた3つの外部連携

- ・新たにベンチャー企業とのシナジー創出の体制も加え、当社の技術や知見の応用、展開に向け一層加速させる



### 3-9. 新規ビジネスへの挑戦 ②-1

## 新イオン交換無機結晶の開発

信州大学発ベンチャー企業であるヴェルヌクリスタル株式会社及び信州大学と共同で、イオン交換樹脂には無い水処理機能を有する新イオン交換無機結晶を開発

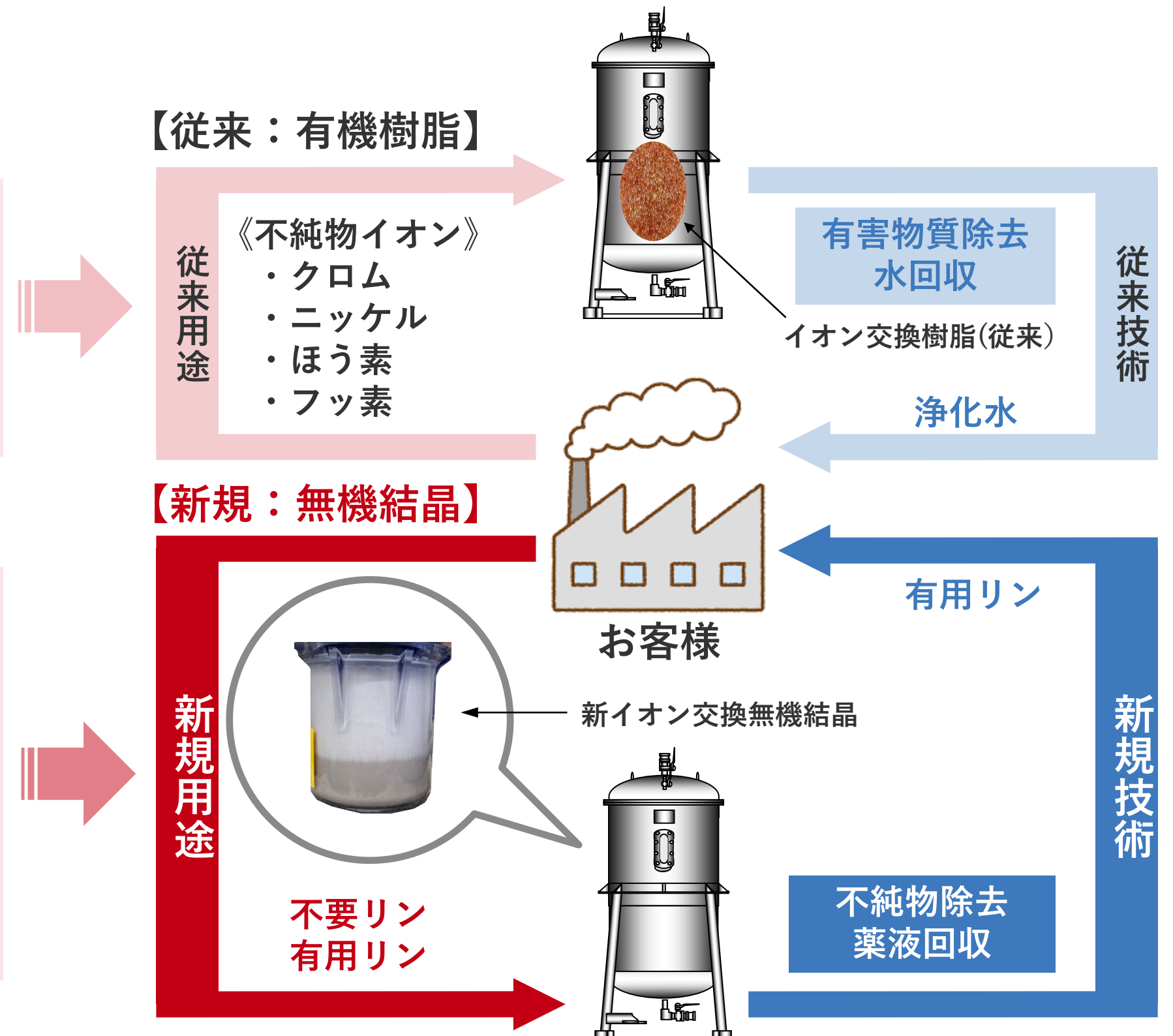
自動車部品等に活用されるめっき液の長寿命化を実現し、サーキュラーエコノミー進展に貢献

#### ■ イオン交換樹脂(従来品)

- ・ 水中の全ての不純物イオンを除去する機能を有する有機材料
- ・ 工業排水中のクロム、ほう素、ニッケルなどの排水浄化や純水製造の装置に利用

#### ■ イオン交換無機結晶(新商品)

- ・ 特定の不純物イオンを選択的かつ高効率に除去できる無機材料
- ・ 無電解ニッケルめっき廃液に含まれる不要イオン(亜リン酸)を選択的に吸着し、有用なイオン(次亜リン酸)を残すことができ、廃液の再利用が可能
- ・ 特許出願済み、今後、イオン交換無機結晶を活用した水処理循環装置を開発し、2年後の実用化を目指す





### ベンチャーキャピタル・ファンドへの出資

ファンド出資を通じ、ベンチャー企業とのシナジー創出機会を探索

- 環境エネルギー分野に特化したファンド「EEI5号イノベーション&インパクト投資事業有限責任組合」へ本年4月出資
- 新たな技術・ビジネスモデルを保有するベンチャー企業との連携を検討し、新規事業の開発を目指す

#### 「EEI5号イノベーション&インパクト投資事業有限責任組合」概要

運営会社 株式会社環境エネルギー投資

運用期間 2022年～2032年（+最長2年間の延長）

投資対象

- 脱炭素を中心に持続可能な社会の実現に貢献するビジネスモデルや技術を有するベンチャー企業
- 2050年カーボンニュートラルに向けて、抜本的なイノベーションに資するビジネスモデルや技術を有するベンチャー企業

# 4-1. 2023年12月期 上期連結業績

APPENDIX

(億円)

	2022年			2023年			前期比
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	
売上高	198	186	384	207	187	<b>394</b>	10
営業利益	37	22	59	14	5	<b>19</b>	△40
経常利益	41	30	71	5	6	<b>11</b>	△60
経常利益率 (%)	21	16	18	2	1	<b>3</b>	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	31	25	56	1	7	<b>8</b>	△48
1株あたり四半期純利益 (円)	20.8	17.0	37.8	1.1	4.7	<b>5.8</b>	△32.0

## 4-2. 2023年12月期 上期連結業績（事業別）

APPENDIX

(億円)

		2022年			2023年			前期比
		1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	
合金鉄	売上高	149	131	280	159	126	<b>285</b>	5
	経常利益	38	23	61	5	△2	<b>3</b>	△58
機能材料	売上高	30	29	59	27	36	<b>63</b>	2
	経常利益	2	3	5	0	5	<b>5</b>	△0
環境	売上高	14	14	28	16	16	<b>32</b>	4
	経常利益	2	1	3	0	2	<b>2</b>	△1
電力	売上高	2	5	7	2	4	<b>6</b>	△1
	経常利益	△1	2	1	△1	2	<b>1</b>	△0
その他	売上高	4	6	10	4	4	<b>8</b>	△2
	経常利益	△0	1	1	△0	0	<b>0</b>	△1
合計	売上高	198	186	384	207	187	<b>394</b>	10
	経常利益	41	30	71	5	6	<b>11</b>	△60

## 4-3. 経営指標推移

APPENDIX

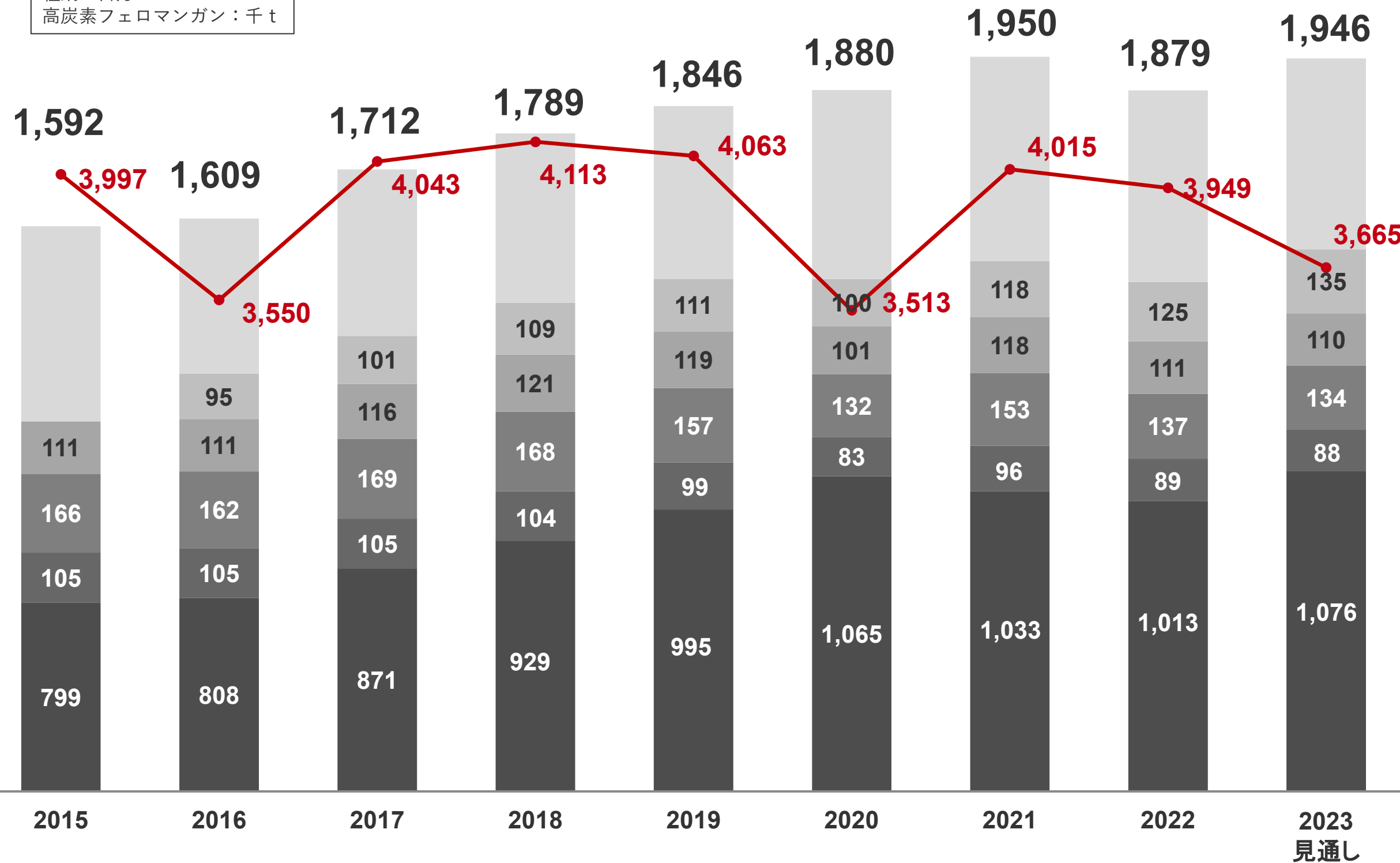
(百万円)

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
売上高	82,902	58,486	71,346	73,944	70,477	54,004	65,978	<b>79,341</b>
営業利益	2,046	1,717	9,639	1,701	△ 5,572	5,434	8,436	<b>8,815</b>
経常利益	211	1,614	9,239	1,947	△ 6,426	3,492	6,870	<b>10,367</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 14,181	△ 116	7,988	2,352	△ 14,240	2,615	7,768	<b>7,949</b>
総資産（期末）	92,827	84,563	98,447	99,786	85,224	86,171	95,888	<b>104,943</b>
自己資本（期末）	63,596	61,232	70,702	69,009	54,206	56,367	64,256	<b>69,187</b>
有利子負債残高（期末）	10,630	7,891	7,230	12,749	18,704	19,354	17,759	<b>21,052</b>
自己資本比率（期末）	68.5%	72.4%	71.8%	69.2%	63.6%	65.4%	67.0%	<b>65.9%</b>
発行済株式総数（千株）	146,741	146,741	146,741	146,741	146,568	146,776	146,853	<b>146,931</b>
自己所有株式数（千株）	306	306	308	309	1	2	8	<b>7,092</b>
1株当たり純資産（円）	434.30	418.16	482.83	471.28	369.84	384.04	437.58	<b>494.76</b>
1株当たり当期純利益（円）	△ 96.84	△ 0.80	54.55	16.06	△ 97.20	17.83	52.91	<b>54.45</b>
1株当たり配当額（円）	5.00	5.00	13.00	5.00	-	5.00	16.00	<b>17.00</b>
ROE（自己資本利益率）	△ 20.0%	△ 0.2%	12.1%	3.4%	△ 23.1%	4.7%	12.9%	<b>11.9%</b>
ROA（総資産利益率）	△ 15.3%	△ 0.1%	8.1%	2.4%	△ 16.7%	3.0%	8.1%	<b>7.6%</b>
ROS（売上高経常利益率）	0.3%	2.8%	13.0%	2.6%	△ 9.1%	6.5%	10.4%	<b>13.1%</b>
期中最高株価（円）	329	266	545	528	249	320	410	<b>459</b>
期中最低株価（円）	207	145	242	193	148	108	263	<b>272</b>

# 4-4. 粗鋼・高炭素フェロマンガンの生産量

■粗鋼（中国） ■粗鋼（日本） ■粗鋼（EU） ■粗鋼（北アメリカ） ■粗鋼（インド） ■粗鋼（その他） ●高炭素フェロマンガン

粗鋼：百万 t  
高炭素フェロマンガン：千 t



## 2023年上期概況

### ■ 世界粗鋼生産（上期）

- 世界粗鋼生産量は前年同期比横ばい。
- インフラ投資が盛んなインドと中国では前年同期比で増加。

### ■ 国内粗鋼生産（上期）

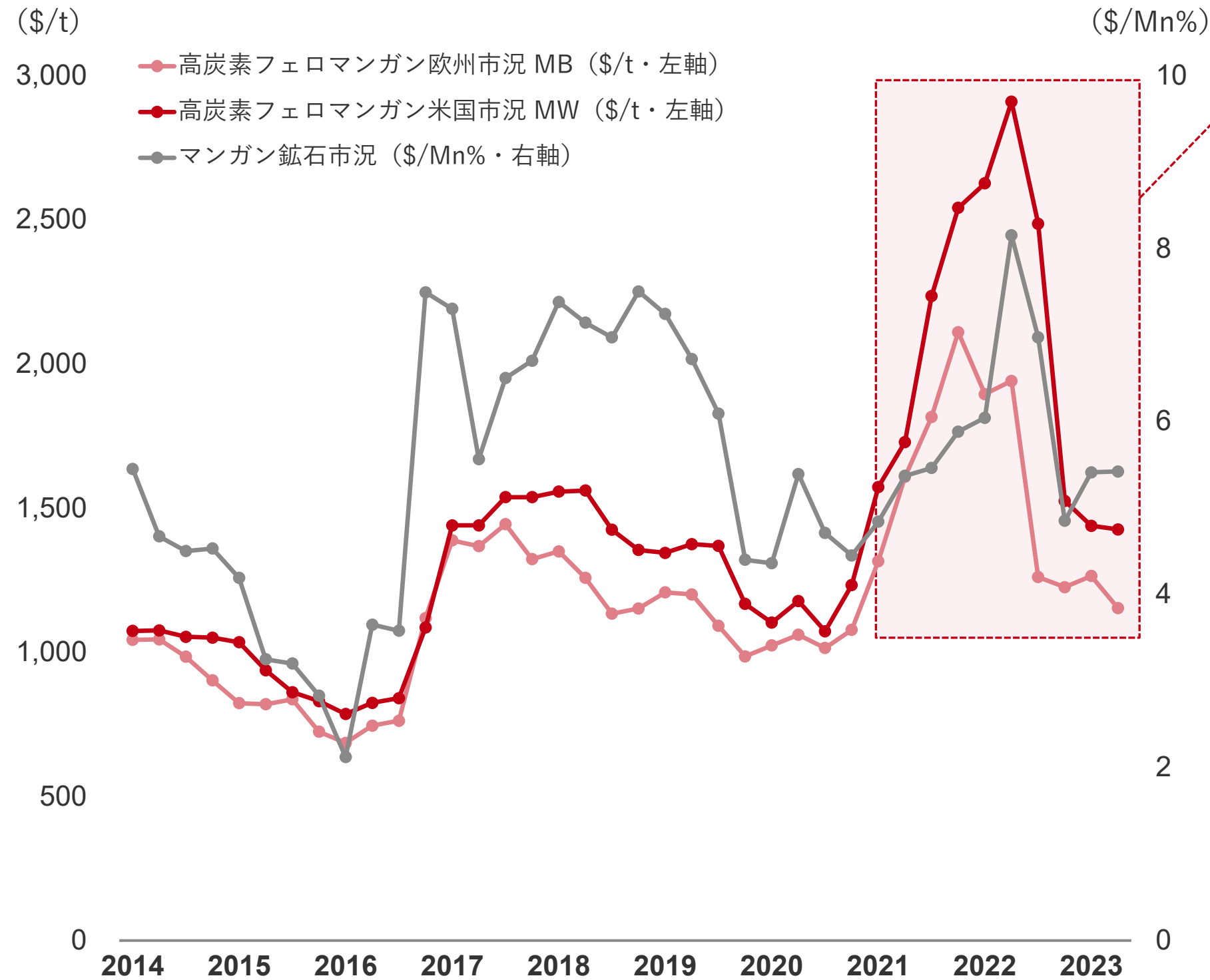
- 半導体不足の緩和により自動車生産は回復傾向にあるものの、建設部門の低迷は継続しており、前年同期比4.7%減少。

### ■ 世界高炭素フェロマンガン生産

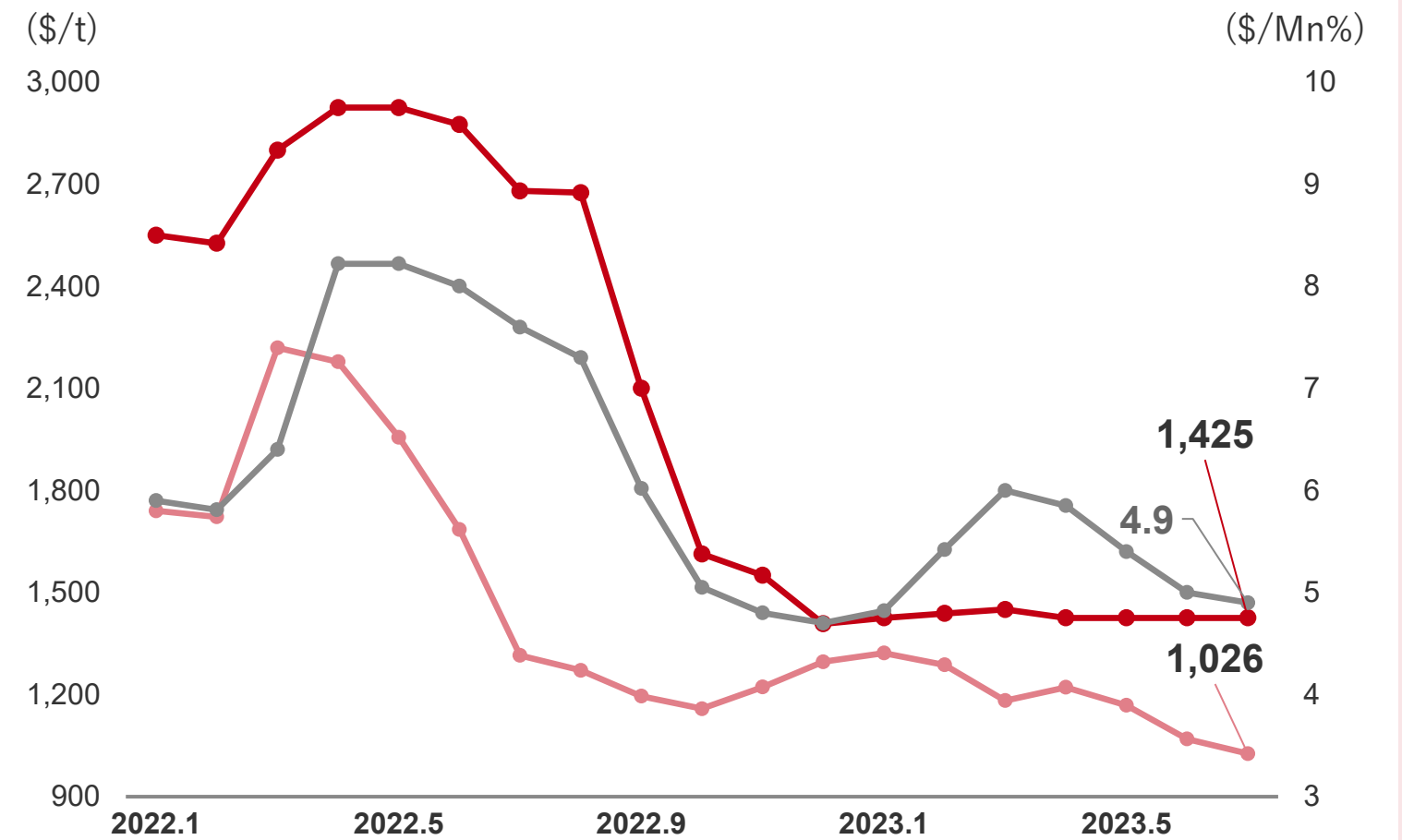
- 市況が下落基調の中、インドでは前年並みの生産をキープしているものの、世界的には減少。
- 世界的な市況弱含みと生産コスト増加を背景に、下期以降で世界的な生産調整の可能性あり。

# 4-5. 高炭素フェロマンガング・マンガン鉱石市況動向

## 四半期毎 市況推移



## 拡大版・月毎市況推移 (2022年1月～2023年7月)



	2022年7月	2023年7月	増減高
高炭素フェロマンガング欧州 (\$/t)	1,315	1,026	▲289
高炭素フェロマンガング米国 (\$/t)	2,680	1,425	▲1,255
マンガン鉱石 (CIF中国) (\$/Mn%)	7.6	4.9	▲2.7

# お問い合わせ先



## 新日本電工株式会社

お問い合わせ先：新日本電工株式会社 総務部 広報IR課

TEL

03-6860-6800

ホームページ

<https://www.nippondenko.co.jp>

### 《免責事項》

本資料は情報提供を目的にしており、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された業績見通し等に関する記述は、現時点で得られた情報に基づき作成されたものであり、その情報の正確性を保証するものではなく、様々な不確定要素を含んでおり、実際の業績は予想と異なる可能性があります。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、弊社は一切責任を負うものではありません。